

平成25年度 秋田大学地域創生センター年報



Center for Regional Development

目次 contents

| | |
|--|----|
| 秋田大学地域創生センターの概要 | 2 |
| センター長あいさつ | |
| 秋田大学地域創生センター センター長 石尾 俊二 | 3 |
| 平成25年度の活動実績 | |
| 1. 地域協働部門 | |
| 地域協働部門長あいさつ | |
| 秋田大学地域創生センター准教授・地域協働部門長 濱田 純 | 6 |
| 1.1 公開講座 | 7 |
| 1.2 自治体連携関係 | 11 |
| 1.3 大学見学受入 | 12 |
| 1.4 地域創生センター主催 | 20 |
| 1.5 他部局主催（年度計画推進経費による） | 26 |
| 1.6 その他 | 34 |
| 2. 地域防災部門 | |
| 地域防災部門長あいさつ | |
| 秋田大学地域創生センター教授・地域防災部門長 水田 敏彦 | 36 |
| 2.1 秋田県の特性を考慮した地域防災のあり方に関する調査・研究 | 37 |
| 2.2 防災について地域で活動できる人材の育成 | 45 |
| 2.3 県及び市町村への防災施策に関する指導・助言 | 59 |
| 参考資料 | |
| 平成25年度事業実施状況一覧 | 64 |
| 地域創生センター運営委員・地域創生課職員一覧 | 69 |
| 社会貢献事業で御協力いただいた学内教職員の方々 | 70 |
| 平成25年度社会貢献事業ポスター（一部） | 72 |

※ 横手分校、北秋田分校、男鹿なまはげ分校、COC事業の各事業報告は別刷り報告書となっております。

個別に配布ご希望の方は下記までご連絡ください。

- ・横手分校、北秋田分校、男鹿なまはげ分校 秋田大学地域創生課 018-889-2270
- ・COC事業 秋田大学地域創生センター COC事務局 018-889-3173

地域創生センター概要

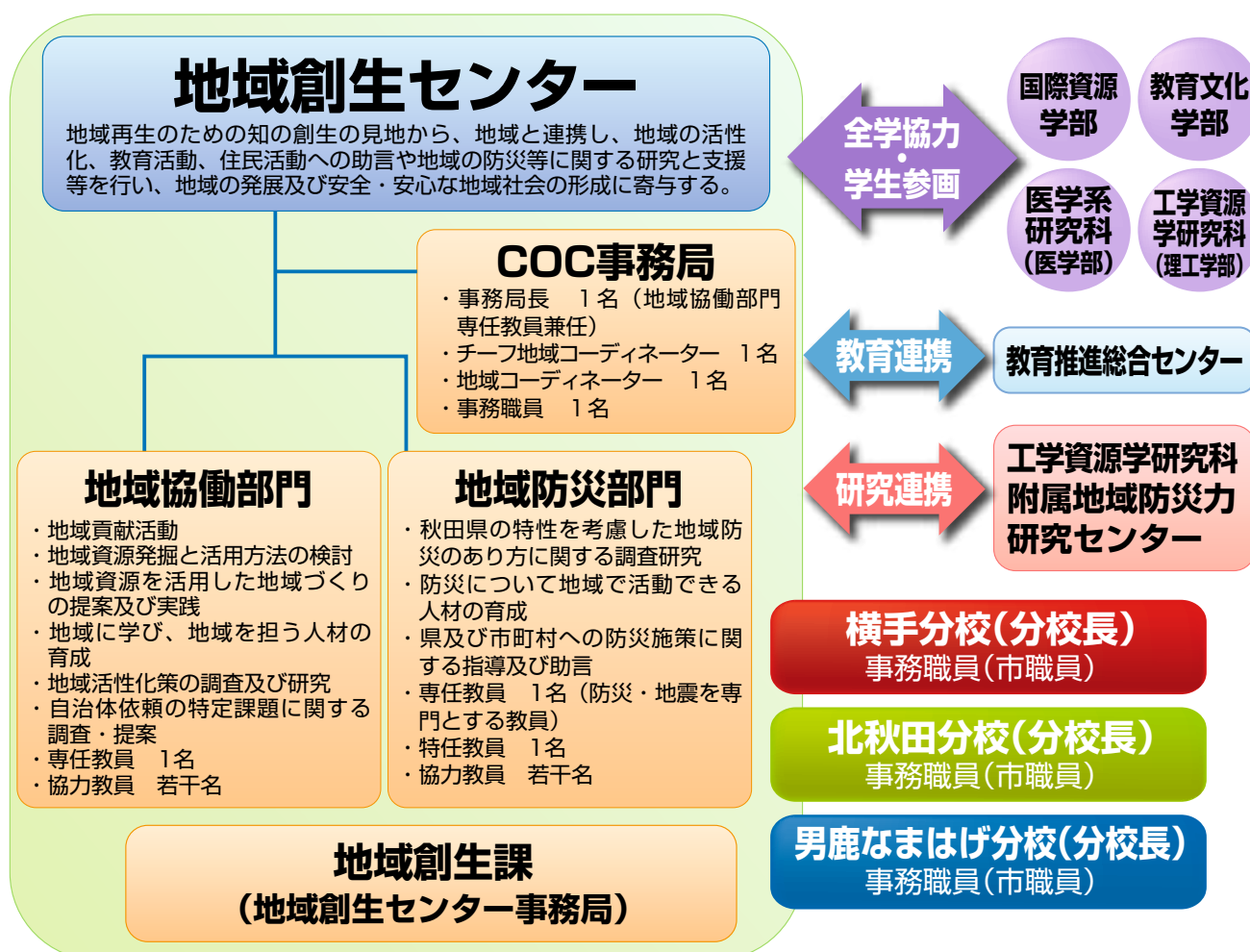
■設置目的

本センターは、地域と連携し、地域の活性化、教育活動、住民活動への助言等を行い、地域資源の発掘、地域づくりを担う人材の育成等を行うことを目的として設置が検討され、以下の沿革に示すとおり平成23年4月に設置された新しい組織である。

本センターは、秋田大学の社会貢献活動の拠点となるとともに、同年9月には地域防災部門を設置し、地域貢献・地域連携に止まらず、地域防災に関する人材育成や自治体の防災施策に関する指導・助言を行うことも目的としている。

■沿革

| | |
|----------|---|
| 平成23年2月 | 教育研究評議会において学内措置としてセンターの設置が了承 |
| 平成23年4月 | センター発足 地域協働部門に専任教員（教授）1名採用 大学本部棟に地域創生課を置き、センター長（兼任）、副センター長（地域協働部門専任教員）の体制でスタート |
| 平成23年9月 | 秋田県からの寄附を原資として地域防災部門が設置され、専任教員（准教授）1名採用 VBL内に研究室を借用 |
| 平成23年10月 | 地域防災部門に専任教員（准教授）1名採用 VBL内に研究室を借用 |
| 平成24年7月 | 地域防災部門の研究室を教育文化学部3号館111室に移動 |
| 平成25年10月 | 文部科学省 地（知）の拠点整備事業（COC事業）採択により事務局設置 |



センター長あいさつ

地域創生センター センター長
石尾 俊二
(大学院工学資源学研究科・教授)

秋田大学地域創生センターは、『“秋田大学の教育や研究の成果”をもとにした“地域社会の活性化と生活の安全への貢献”』を目指して、平成23年度に設置されました。地域コミュニティへの文化的貢献を目指す「地域協働」の観点からは、横手分校、北秋田分校を中心に活動を進めています。例えば、大学教員による小中高校学生を対象とする教育セミナーや公開講座・生涯学習、あるいは大学学生の地域活動への参加と地域特産品の開発支援などです。また地震、津波等の自然災害防止の観点からは地域防災に関する小中学校への講義を積極的に行うとともに、市町村の地域防災に関する諸委員会への参加を行いました。

このような活動をもとに、平成25年には、新たな分校活動の拠点として“男鹿なまはげ”分校が設置されました。次年度から秋田県内のより幅広い地域をカバーしながらの地域協働活動が予定されています。また平成25年度には、文部科学省の実施する地（知）の拠点整備事業（COC事業）にも採択されました。この事業は、「地域大学等が自治体と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・社会貢献を進める大学を支援する」制度です。具体的には、「高齢社会における安全安心な地域づくり」、「高齢者に安心を提供する医療看護による地域づくり」、「地域文化振興による元気な地域づくり」の三つのテーマのもとで、秋田大学の教員、学生が県内各地の方々と協力しながら、より暮らしやすい地域づくりをめざした貢献を果たそうとするものです。

秋田大学地域創生センターの活動も、平成23、24年の活動を経て、第2期に入って来たように思います。第1期はセンターの設置と地域貢献活動への参加でした。第2期目では、よりアグレッシブな活動を実施し、明確な成果を示すことが求められます。前述のCOC事業は、平成25年度から29年度の5年間の予定です。このような事業を通して、地域に住むさまざまな職業や経験を持つ人々と話し合いながら、“地域の夢”を育ててゆきたいと考えています。ご協力とご支援をお願いいたします。

地域協働部門

地域協働部門長あいさつ

地域創生センター 准教授・地域協働部門長
濱 田 純

地域創生センター・地域協働部門の活動の柱に地域活性化への貢献があります。その目標は、現在の地域社会を住民の協住と定住の空間として再構築することです。そこでは地域産業の衰退、少子高齢化、コミュニティ機能の減退、行政サービスの後退、共同消費手段の消失等、暮らしにくさが増大し、地域社会が沈滞・疲弊していく状況に対して、地域のなかで安心して暮らせるしくみを創るための生活の維持と向上が求められております。そのためには、将来どのような地域を創出するべきか、またすることができるかを、如何に具体的に提起することが求められています。分断され続ける個人や個々の家族にとって、安心して暮らし続けるために、自分たちで解決しなければならない生活課題が益々増大するなかで、それらへの対応のしくみが模索される必要があります。

こうした状況のなか、今日、各地で地域づくりの取り組みからは、農業を中心とした地域産業の振興ないし6次産業化、リコミュニティ活動の活性化、交流人口の増大、行政と地域住民とのコラボレーション等、地域生活の持続的発展に向けた取り組みが報告されています。しかし一方で、旧来の社会関係の紐帯や地域の構造的硬さのために、地域を動かす原動力として、外からの力の必要や期待も指摘されています。新規参入者、まちづくり協力隊、集落支援員等です。しかし新規参入者に散見される地域再生の試みの成功事例以外は、ほとんど地域に埋没している例が多く見受けられます。

大学が地域の活性化に関わるのは、まさに第三者としての立場です。地域が自立的に自分たちの地域を再構築するためには、住民の地域課題解決への意欲、合意、実践がなければなりません。大学は第三者として、新たな生活の展望と提案、合意形成、地域運動への誘いをつくることが求められています。

そのためには、大学が取りうる方法として、①住民による地域再生のプロジェクトの立ち上げと実践を、住民との協働で行うことによって、地域の実情に応じた再生のプロセスのモデルを構築すること、②地域資源を活用した地域産業の振興、集落機能の持続的な補完システム、新たなコミュニティ活動の形成、住民組織の再編成が如何にして可能かを提示し、新たな地域社会の構築に貢献すること、などが考えられます。いわば大学は、外部者（中間者）の役割を果たすことによって、住民の地域課題解決への意欲の結集をはかり、より組織的にまた効率的に地域の再生に寄与することができると思います。

こうしたなか、本学は文部科学省平成25年度「地（知）の拠点整備事業」に採択され、地域再生・活性化の拠点となる整備を具体的に進める環境が整ったことから、地域協働部門における事業の一層の効果的展開が期待できます。

今年度も引き続き、秋田県、連携自治体及び地域住民との協働で、新たな社会形成に向けての理念の構築とその実現に向けて取り組んでまいります。

1. 1 公開講座

開講数：7講座

総受講者数：320名

●事業内容

地域に開かれた大学づくりの一環として、秋田大学の持つ教育資源を広く市井に向けて提供することを目的に実施している。

●事業成果と課題

内容は文理を問わず様々であり、いずれも好評を得た。受講者にはリピーターも多く、ある程度本事業の存在が定着してきていると考えられる。

今後は、講座の内容（難易度、対象者等）に対する問い合わせが多く寄せられたことがあるため、広報用チラシによる周知の内容・方法を、より工夫していく必要がある。



実施講座

(1) サイコロジカル・カフェ

実施日 平成25年6月4日（火）～平成25年7月19日（金） 全7回

会場 カレッジプラザ

担当講師 秋田大学教育文化学部

第1回 教育心理学講座 教授 高田知恵子

第2回 教育実践講座 准教授 宮野素子

第3回 教育実践講座 教授 柴田健

第4回 教育心理学講座 教授 森和彦

第5回 教育実践講座 准教授 北島正人

第6回 教育心理学講座 准教授 中野良樹

第7回 教育心理学講座 講師 清水貴裕

受講者数 のべ124名

心理学系教員7名が各回の案内人となり、最近の心理学の知見、研究、実験や技法についてカフェ感覚で実演や実習を交えて紹介した。

(2) 「驚異の島々」—ロンドンオリンピックに学ぶ英国文化—

実施日 平成25年6月14日（金）～6月28日（金） 全3回
会場 カレッジプラザ
担当講師 秋田大学教育文化学部欧米文化講座 准教授 大西洋一
受講者数 23名

2012年夏に開催されたロンドンオリンピック開会式のすばらしいパフォーマンスを振り返り、そこに描かれた英国像を深く探った。

(3) 秋田大発！材料の世界の今昔散歩

実施日 平成25年8月2日（金）～9月27日（金） 全7回
会場 秋田大学工学資源学部3号館319室
担当講師 秋田大学大学院工学資源学研究科材料工学専攻

- 第1回 教授 齋藤嘉一
- 第2回 教授 小玉展宏
- 第3回 教授 原 基
- 第4回 教授 田口正美
- 第5回 教授 麻生節夫
- 第6回 教授 大笹憲一
- 第7回 教授 石尾俊二

受講者数 16名

7名の材料工学研究者が、エネルギー供給や環境保全といった全世界的な問題を、材料工学の視点から、今日に至るまでの材料開発への取組例をもとにわかりやすく説明した。

(4) 総合自殺予防学インテンシブコース

地域における自殺対策の科学的エビデンスと展望

実施日 平成25年10月4日（木）～11月1日（木） 全4回
会場 カレッジプラザ
担当講師 第1回 秋田大学大学院医学系研究科公衆衛生学講座 准教授 佐々木久長
釜石市保健福祉部健康推進課 係長 水野由香里、主任保健師 白澤まき子
第2回 大分県立看護科学大学 教授 影山隆之
第3回 秋田大学大学院医学系研究科公衆衛生学講座 助教 藤田幸司
第4回 国立精神・神経研究センター 認知行動療法センター 所長 大野裕
受講者数 49名

地域の現場で自殺対策に取り組む保健師や行政担当者、ボランティア等を対象として、毎年継続的に開講している講座である。

(5) 腰痛 —原因別に見た対策と予防—

実施日 平成25年11月7日(木)～11月28日(木) 全4回

会場 カレッジプラザ

担当講師 秋田大学大学院医学系研究科

第1回 理学療法学講座 教授 岡田恭司

第2回 臨床看護学講座 助教 眞壁幸子

第3回 理学療法学講座 助教 齊藤明

第4回 作業療法学講座 准教授 金城正治

受講者数 31名

ほとんどの人が経験している「腰痛」について、その原因別による対策と予防を講義と実習により解説した。

(6) 深奥なる雅楽の魅力

実施日 平成25年11月17日(日)～12月15日(日) 全4回

会場 秋田大学VBL大セミナー室

担当講師 秋田大学教育文化学部音楽教育講座 准教授 武内恵美子

受講者数 48名

日本を代表する伝統音楽ながら、普段はあまり耳にする機会がない「雅楽」について、奥深い魅力をかんじる機会として開催した。

(7) 発声法と歌唱法 —童謡・唱歌、秋田の歌曲を歌う—

実施日 平成26年3月1日(土)～3月30日(日) 全4回

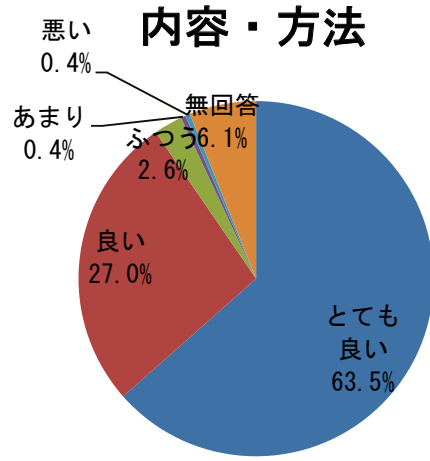
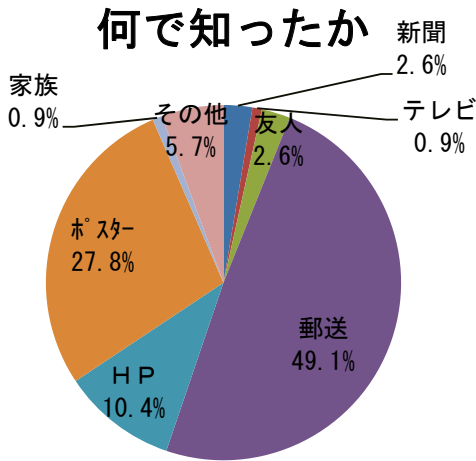
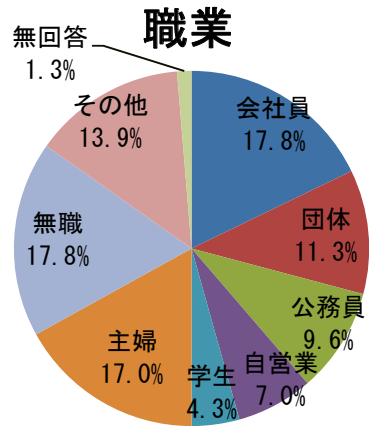
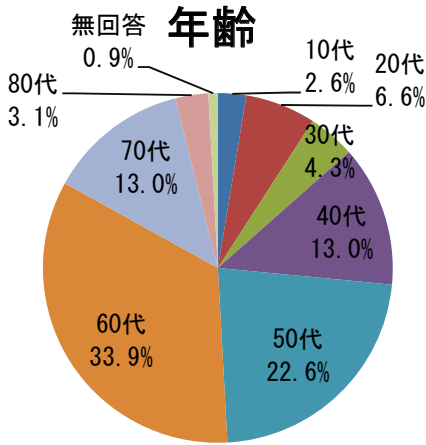
会場 秋田大学教育文化学部2号館 演奏ホール

担当講師 秋田大学教育文化学部音楽教育講座 准教授 爲我井壽一

受講者数 29名

基礎的な発声法や歌唱法の学習を通して、歌う喜びや楽しさを感じ、声楽に親しむことを目的に開催。

公開講座 アンケート集計結果



公開講座総受講者数 296名
 アンケート回答者数 230名
 (回収率77.7%)

■受講者の声（抜粋）

- 自分の生活や悩みの解決に役立てられればと受講しましたが、自分の仕事にも生かすことができそうな内容で大変充実した時間を過ごすことができました。講師の先生の体験談も交えた説明で、面白く、内容也非常にわかりやすかったです。
「サイコロジカル・カフェ」より
- 各回とも、講師の先生がゆきとどいた資料を作っていたいただいて、内容を良く理解でき今後も役立つと思います。ボリュームもレベルも大変適切でした。
「秋田大発！材料の世界の今昔散歩」より
- 先生の指導のユニークさに毎回楽しむことができました。教え方の工夫にも感動しました。学生の皆さんもやさしく、受講生の声を聞き入れ、とてもよくサポートしてくれました。先生には心から感謝しております。リピーターになりそうです。ありがとうございました。
「歌唱法と発声法—童謡・唱歌、秋田の歌曲を歌う—」より

■アンケート分析

受講者の年代は50代及び60代で半数以上を占め、職業も公務員を含めた会社員や主婦、無職が多いことから、時間的な融通が可能な方々の受講が多いことがわかる。

周知方法では、約半数が郵送による案内と回答しており、これは過去受講者を示しているため、半分はリピーターであるといえる。

内容・方法については、「とても良い」と「良い」を合わせて9割以上にのぼり、肯定的な評価をされているといえる。受講者の声を見ると、「新たな発見ができた」、「次回の講座が楽しみ」といった感想が数多く聞かれた一方、「違う先生の違うテーマで中途半端な感じ」、「内容をもっと深く知りたい」などの意見もあり、今後の企画・運営の参考としたい。

1. 2 自治体関連関係

事業を実施した自治体：美郷町

●事業内容

秋田大学は「地域に根ざした大学」を目指し、連携協定を結ぶ県内の自治体において、様々な社会貢献活動を展開している。

●事業成果と課題

平成24年度11月20日に湯沢市と連携協定を結んだことにより、県内自治体との連携協定数は計13となった（県も含む）。

これからは、教員や学生が地域に入り込むことにより住民の意識を刺激することはもちろん、学生にとっても地域の現状を理解し、問題意識を持つための教育的機会となるようなプログラムづくりを行っていきたい。

実施事業

(1) 美郷町連携事業「水のコンサート」

実施日 平成25年10月26日（土）

会場 美郷町公民館

担当 秋田大学教育文化学部音楽教育講座 准教授 為我井壽一

秋田大学教育文化学部音楽教育講座 学生23名

秋田大学と美郷町との「水」をキーワードとした連携協定の連携事業の一環として、水に関するイベント「美郷フェスタ」内の一企画として前年度と同様に参加した。学生23名が様々なジャンルから、ピアノ、フルート演奏や独唱、二重唱など6曲を披露した。



1. 3 大学見学受入

受入団体数：31団体

見学者数：597名



●事業内容

大学という機関を知り、興味を深めてもらうことを目的に、中学校の「総合的な学習の時間」におけるキャリア教育や、一般団体の大学見学など、各種ニーズに応じて秋田大学への訪問を受け入れている。

●事業成果と課題

見学団体数は年々増加しており、中学校からの見学が全体の9割を占めている。本事業が秋田県内各中学校に浸透しつつあることがうかがわれる。

見学内容を団体側の要望に添うよう調整し好評を得ていることから、引き続ききめ細かに対応していきたい。

見学団体数の増加に伴い、秋田大学生を案内役に活用するといった受入体制の工夫が課題となりつつある。



実施事業

(1) 北秋田市立鷹巣中学校

実施日 平成25年5月7日(火)

内容 天体観測ドーム見学、環境応用化学科実験室見学、大学教員と意見交換

対応者 教育文化学部技術部基礎技術係 技術長 毛利春治

工学資源学研究科 助教 山下剛司

〃 助教 芳賀一寿

地域創生センター 准教授 濱田純

人数 7名(2年生)



(2) 三種町立琴丘中学校

実施日 平成25年5月14日(火)

内容 附属図書館見学、総合情報処理センター見学、音楽教育講座授業体験

対応者 附属図書館職員
総合情報処理センター職員
教育文化学部 准教授 爲我井壽一

人数 2名(2年生)



(3) 能代市立能代第一中学校

実施日 平成25年5月20日(月)

内容 附属図書館見学、大学教員と意見交換、授業見学

対応者 附属図書館職員
教育推進総合センター 准教授 細川和仁
教育文化学部 教授 川村教一

人数 3名(2年生)



(4) 北秋田市立阿仁中学校

実施日 平成25年5月29日(水)

内容 応用地球物理学実験室見学、附属鉱業博物館見学

対応者 工学資源学研究科 教授 西谷忠師
附属鉱業博物館 サイエンスボランティア

人数 22名(2年生)



(5) 大仙市立大曲中学校

実施日 平成25年6月28日(金)

内容 天体観測ドーム見学、機械工学実験研究エリア見学

対応者 教育文化学部技術部基礎技術係 技術長 毛利春治
工学資源学研究科 教授 村岡幹夫

人数 48名(3年生)



(6) 秋田市立明德小学校

実施日 平成25年6月28日(金)

内容 手形キャンパス内見学

対応者 地域創生課職員

人数 7名(2年生)



≫大学見学受入

(7) 秋田市立城南中学校

実施日 平成25年7月3日(水)
内容 大学教員との質疑、手形キャンパス内見学
対応者 地域創生センター 准教授 濱田純
地域創生課職員
人数 3名(2年生)



(8) 大潟村立大潟中学校

実施日 平成25年7月4日(木)
内容 大学教員との質疑
対応者 教育文化学部 教授 高田知恵子
人数 1名(3年生)

(9) 秋田市立御所野学院中学校

実施日 平成25年7月18日(木)
内容 教育心理学講座見学、数理科学講座見学
対応者 教育文化学部 講師 清水貴裕
工学資源学研究科 准教授 小林真人
人数 34名(3年生)



(10) 秋田大学教育文化学部附属中学校

実施日 平成25年7月23日(火)
内容 大学教員との質疑
対応者 工学資源学研究科 講師 福田誠
人数 1名(2年生)

(11) にかほ市立仁賀保中学校

実施日 平成25年8月1日(木)
内容 大学教員との質疑
対応者 教育文化学部 教授 杜威
人数 1名(3年生)

(12) 大仙市立大曲西中学校

実施日 平成25年8月1日(木)
内容 附属鉱業博物館見学、エネルギー化学工学研究室見学
対応者 工学資源学研究科 教授 菅原勝康
人数 19名(1年生)



(13) 秋田県立横手高等学校

実施日 平成25年8月7日(水)
 平成25年8月10日(土)
 平成25年8月19日(月)

内容 先輩に学ぶ職業講座

対応者 教育文化学部 学部長 四反田素幸
 工学資源学部 学部長 小川信明

人数 7名(1年生)

(14) 秋田市立城東中学校

実施日 平成25年8月19日(月)～21日(水)

内容 職場体験学習

対応者 地域創生課職員
 企画広報課職員
 国際課職員
 附属ものづくり創造工学センター 講師 和田豊

人数 1名(2年生)

(15) 美郷町立美郷中学校

実施日 平成25年9月24日(火)

内容 模擬授業体験、附属図書館見学

対応者 工学資源学研究科 助教 網田和宏
 附属図書館職員

人数 60名(3年生)



(16) 学校法人敬愛学園 国学館高等学校

実施日 平成25年10月8日(火)

内容 特別講義、附属鉱業博物館見学

対応者 工学資源学研究科 教授 藤井光
 附属鉱業博物館 サイエンスボランティア

人数 32名(3年生)

(17) 秋田市立御野場中学校

実施日 平成25年10月9日(水)

内容 大学教員との質疑

対応者 教育文化学部 教授 大橋純一

人数 15名(1年生)



▶▶大学見学受入

(18) 能代市立能代第二中学校

実施日 平成25年10月17日（木）

内容 数理科学に関する研究体験、英語授業見学、手形キャンパス内見学

対応者 工学資源学研究科 教授 山村明弘
教育文化学部 准教授 若宥保彦
地域創生課職員

人数 13名（2年生）



(19) 秋田市立土崎中学校

実施日 平成25年10月18日（金）

内容 特別講義（秋田の自然環境）

対応者 教育文化学部 准教授 石井照久

人数 6名（1年生）



(20) 由利本荘市立大内中学校

実施日 平成25年10月24日（木）

内容 環境応用化学科研究室見学

対応者 工学資源学研究科 講師 小笠原正剛

人数 2名（1年生）



(21) 秋田市北部サークル連絡協議会

実施日 平成25年10月25日（金）

内容 附属鉱業博物館見学、手形キャンパス内見学

対応者 附属鉱業博物館 サイエンスボランティア
地域創生課職員

人数 53名（社会人）



(22) にかほ市立金浦中学校

実施日 平成25年10月29日（火）

内容 授業見学、手形キャンパス内見学

対応者 教育文化学部 准教授 原義彦
地域創生課職員

人数 49名（2年生）



(23) 仙北市立生保内中学校

実施日 平成25年11月6日(水)
 内容 授業見学、手形キャンパス内見学
 対応者 教育文化学部 准教授 石沢真貴
 地域創生課職員
 人数 19名(2年生)



(24) 大仙市立豊成中学校

実施日 平成25年11月6日(水)
 内容 模擬授業体験、手形キャンパス内見学
 対応者 教育文化学部 教授 高田知恵子
 地域創生課職員
 人数 26名(3年生)



(25) 小坂町立小坂中学校

実施日 平成25年11月7日(木)
 内容 ロケット製作打上体験、附属鉱業博物館見学
 対応者 附属ものづくり創造工学センター 講師 和田豊
 附属鉱業博物館 サイエンスボランティア
 人数 51名(1年生)



(26) 秋田県立横手清陵学院中学校

実施日 平成25年11月8日(金)
 内容 模擬授業体験、附属鉱業博物館見学、教員・学生との交流
 対応者 教育文化学部 教授 三宅良美
 附属鉱業博物館 サイエンスボランティア
 教育文化学部 准教授 爲我井壽一
 教育文化学部 准教授 山名裕子
 教育文化学部 准教授 西川竜二
 教育文化学部 准教授 石井照久
 工学資源学研究科 教授 泰松斉
 工学資源学研究科 教授 大笹憲一
 工学資源学研究科 教授 山村明弘
 人数 80名(2年生)



≫大学見学受入

(27) 大仙市立仙北中学校

実施日 平成25年11月12日（火）
内容 附属図書館見学、手形キャンパス内見学
対応者 附属図書館職員
地域創生課職員
人数 9名（1年生）



(28) 仙北市立椴木内中学校

実施日 平成25年11月14日（木）
内容 附属鉱業博物館見学、手形キャンパス内見学
対応者 附属鉱業博物館 サイエンスボランティア
地域創生課職員
人数 4名（3年生）



(29) 秋田市立外旭川中学校

実施日 平成25年11月22日（金）
内容 応用地球物理学実験室見学、手形キャンパス内見学
対応者 工学資源学研究科 教授 西谷忠師
地域創生課職員
人数 13名（2年生）



(30) 秋田大学教育文化学部附属中学校

実施日 平成25年12月3日（火）～5日（木）
内容 職場体験学習
対応者 附属鉱業博物館 サイエンスボランティア
国際課職員
地域創生課職員
人数 3名（1年生）

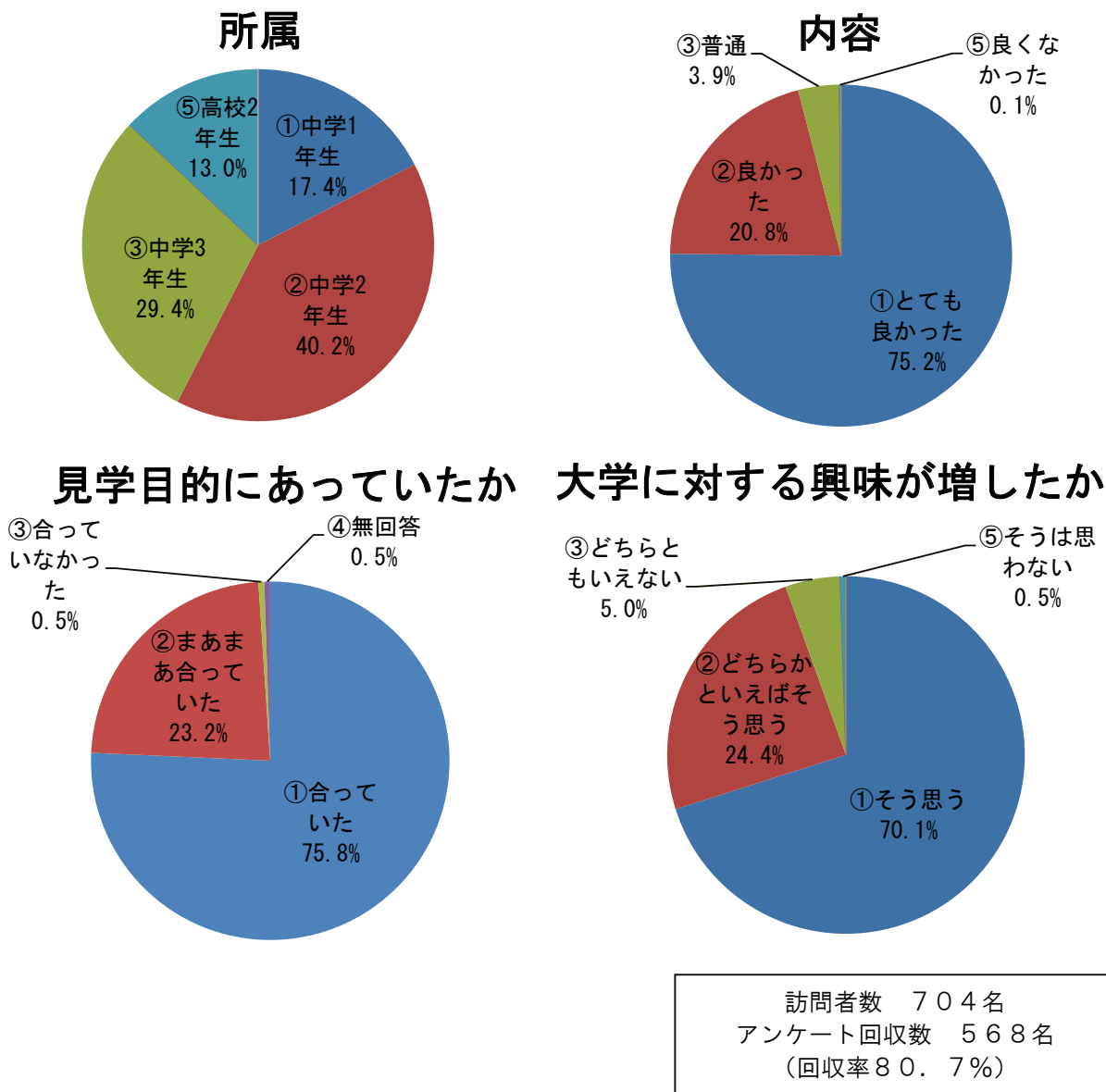


(31) 秋田市立将軍野中学校

実施日 平成25年12月6日（金）
内容 手形キャンパス内見学
対応者 地域創生課職員
人数 6名（1年生）



大学見学受入 アンケート集計結果



■見学者の声 (抜粋)

- ・秋田大学のいろいろな施設を体験し、はじめて見るものもあっておもしろかったです。大学ときくと、あまりイメージがわかかなかったのですが、様々な授業や施設を見学し、大学ではどういったことを学ぶところなのかが分かりました。今回体験したことを普段も活かし、意欲的に取り組みたいと思いました。(中学1年)
- ・秋田大学は想像していたより、広くて楽しそうでした。中学生や高校生とは違ってすべて自分でやるという感じなのですごいなと思いました。(中学2年)

■アンケート分析

秋田大学に関し漠然としたイメージしか持っていなかった生徒は、短時間の見学ではあるものの実際に見聞することで秋田大学の実際を知り、好印象を抱いてくれているようだ。「大学に対する興味が増したか」の設問には9割以上の生徒が肯定的回答を寄せている。

見学内容を学校側の要望に添うよう調整したことで、生徒の満足感も高いようだ。

1. 4 地域創生センター主催

事業実施数：3件



●事業内容

これまで見てきた各事業のほかにも、地域創生センターが主催して講演会等を実施している。中でも、「秋田大学子ども見学デー」は大学の法人化以降毎年度継続して実施しているイベントであり、参加者から好評を得ている。

●事業成果と課題

「秋田大学子ども見学デー」は全11コース、244名の参加があり、過去最大の規模となった。これは一昨年度のアンケート結果を受け、実施日を昨年度から8月前半に変更したところが大きいと思われる。

横手分校、北秋田分校とともに3カ所で実施した「メディカル・サイエンスカフェ・ネクスト」は、美郷町においてセンター主催として開催し、地元の高校生を含め約100名が参加した。質疑応答も含め、2時間という時間が短く感じるほど参加者の関心が高かった。

例年横手分校で実施している「教育ミニミニ実習」の視察も組み入れた「大学改革シンポジウム」を国大協との共催で実施した。県内外からの約50名の参加があり、学力日本一の秋田の教育の一端をアピールする場となった。

今後も学内外に秋田大学の持つ知的資源を還元していけるような事業を企画したい。

実施事業

(1) 秋田大学子ども見学デー ～キミの“わくわく” 見つけにいこう！～

実施日 平成25年8月7日(水)

会場 秋田大学

- コース
- ・教育文化学部(3コース)
 - ・医学部(3コース)
 - ・工学資源学部(2コース)
 - ・総合情報処理センターコース
 - ・ベンチャーインキュベーションセンターコース
 - ・附属図書館コース



小・中学生とその保護者を対象として、夏休みの間に大学内の見学や様々な体験を通して、大学に対する関心を深めてもらうことを目的として開催した。平成16年度から継続実施しており、今年度は過去最多の104家族244名が参加した。参加者は60周年記念ホールにて当日のスケジュールや秋田大学の概要について説明を受け、コース毎に学長と記念撮影、その後11の見学コースに分かれて体験学習を実施した。

今回も昨年度に引き続き大学食堂で利用できるデザート無料引換券が配付され、コース見学終了後、食堂は多数の親子連れで賑わった。

(2) メディカル・サイエンスカフェ・ネクスト

実施日 平成25年10月2日(水)

会場 美郷町中央ふれあい館

担当講師 秋田大学大学院医学系研究科 研究科長 澤田賢一

秋田大学教育文化学部教育心理学講座 教授 森和彦

秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻地域老年学講座 教授 中村順子

秋田大学大学院工学資源学研究科情報工学専攻 教授 水戸部一孝

参加者 約100名

医学系研究科の主催で過去実施されてきた「メディカル・サイエンスカフェ」に、平成24年度から新たな視点を加え、教育文化学部、医学系研究科の教員が連携し実施されている。平成25年度は、工学資源学研究科の教員を加え、「高齢社会を明るく元気に生きる」をテーマに、サイエンスカフェ・マスターの進行により、一般市民や高校生ら参加者との打ち解けた雰囲気のもと活発な質疑応答があった。なお、横手分校、北秋田分校主催による「メディカル・サイエンスカフェ・ネクスト」が県北・県南地区においてそれぞれ実施されている。



(3) 平成25年度大学改革シンポジウム

「地域力を生かした教員養成システム～“教員養成秋田モデル” & 横手分校の取り組み～」

実施日 平成26年1月10日(金)、1月11日(土)

会場 横手南中学校、横手プラザホテル

参加者 約50名

平成26年1月10日(金)、11日(土)の二日間にわたり、横手市で平成25年度「大学改革シンポジウム」を開催した。同シンポジウムは国立大学協会が募集する事業であり、同時に募集される「防災・日本再生シンポジウム」もあわせると、平成25年度で4年連続の採択となる。当日は寒波によりあいにくの天候だったも



➤地域創生センター主催

この、二日間で県内外の教育関係者50名あまりが参加し、今後の教員養成のあり方について検討した。

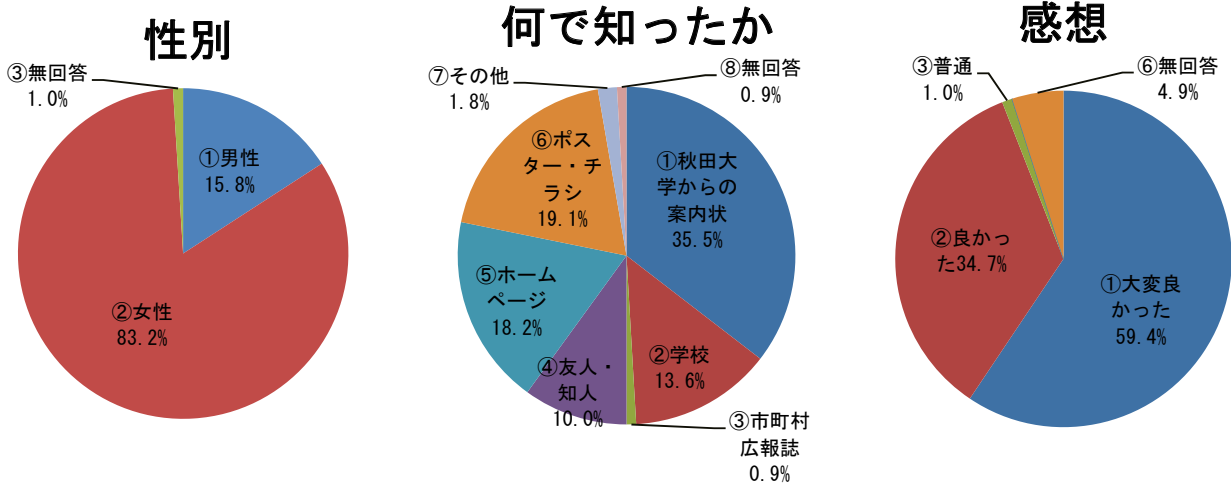
1日目は横手市立横手南中学校にて、横手分校で平成23年度から実施されている教職体験プログラム「教育ミニミニ実習」の視察を行った。

2日目には横手プラザホテルにて、今回のメインとなるシンポジウムを開催した。

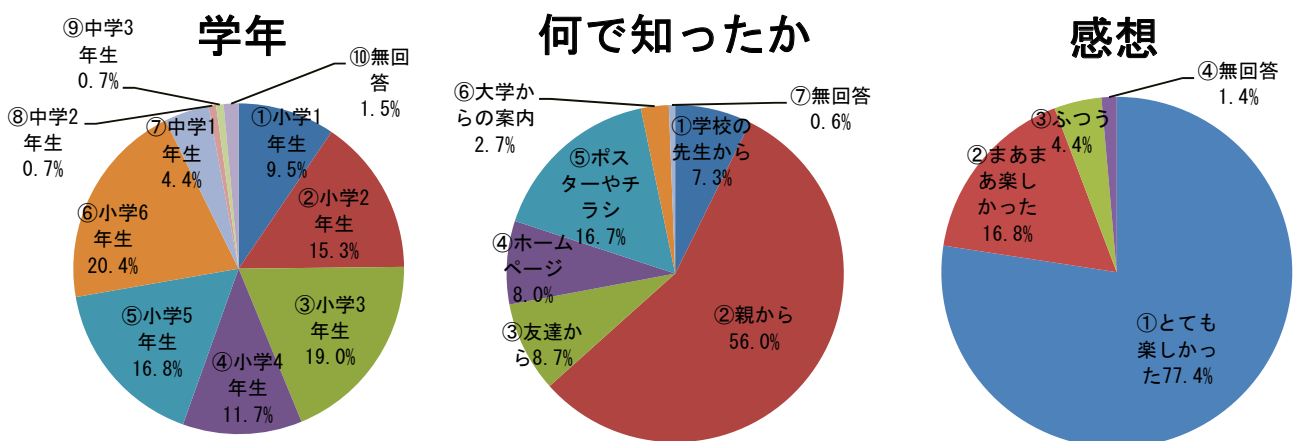
二日間のプログラムを通し、参加者にとっては、より具体的かつ奥深く教員養成について考える機会となったようだ。

地域創生センター主催事業 アンケート集計結果
 <子ども見学デー>

保護者（参加者数104名，アンケート回収数101 回収率97.1%）



子ども（参加者数140名，アンケート回収数137 回収率97.9%）



■参加者の声（抜粋）

<保護者>

・秋田大学の門をくぐるだけでもワクワクドキドキでした。子どもがワクワクできる体験をこれからもたくさん企画して下さい。期待してます

<子ども>

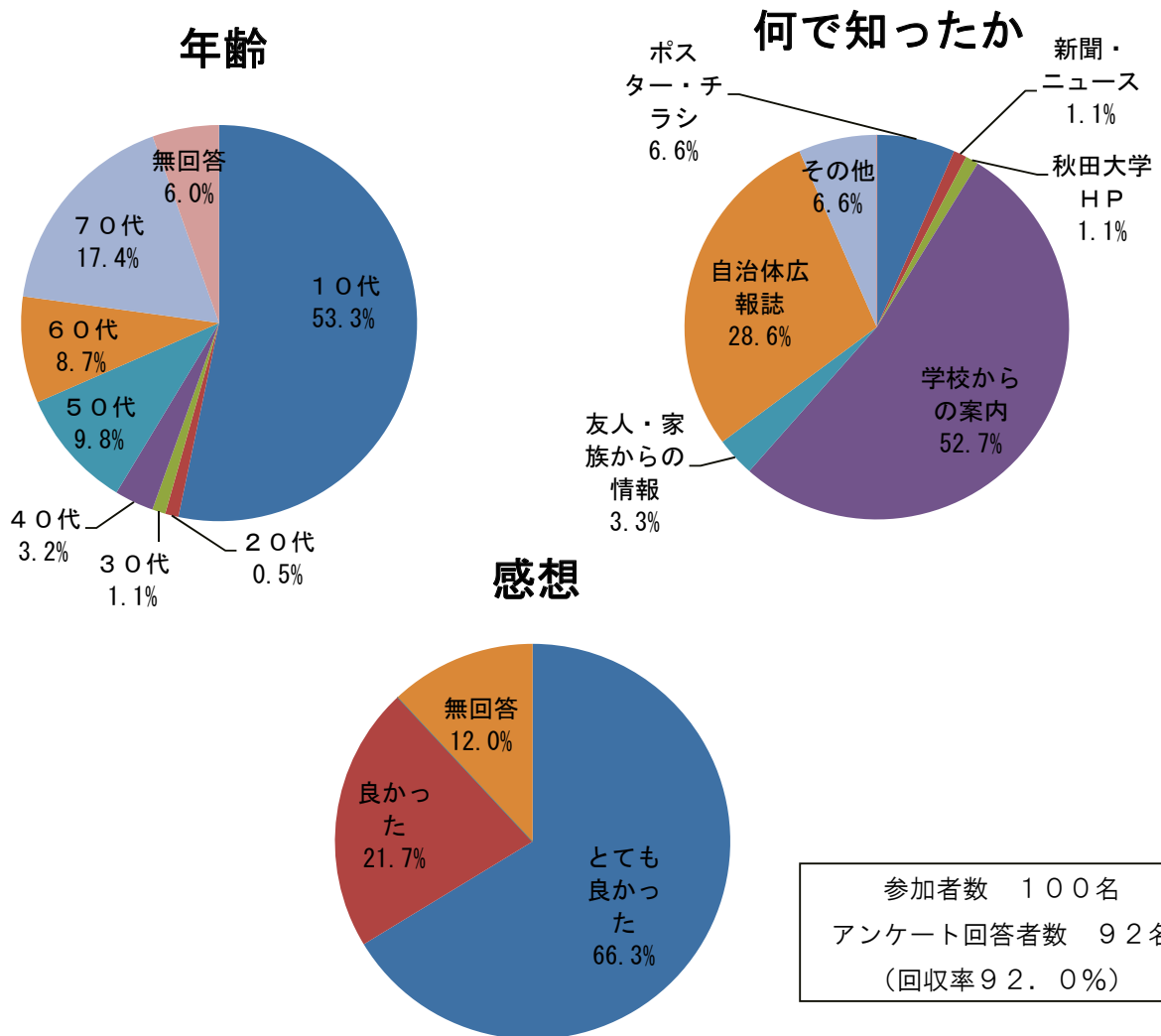
- ・ものすごい実験でぼくもびっくりしました。またきてみたいし、今日学んだことを家でもやってみたいです。(小学4年)
- ・なかなか入れない鉱業博物館に入れたので、とても貴重な体験でした。お土産までもらえて嬉しかったです。
- ・秋田大学の説明を聞いて、とてもいい大学だと思いました。たくさん勉強して、秋大に入りたいと思いました!(小学6年)

■アンケート分析

子どもの参加年齢は、小学校低学年が4割、高学年が5割弱となっており、この年齢層で9割を占めている。楽しいという回答が大半であり、年齢層に合った内容となっていることが伺われる。

ただ、科学実験や子どもが実際に手を動かす内容のコース設定を望む声も聞かれることから、次回のコース設定に反映させ、より満足度の高い事業を目指したい。

メディカル・サイエンスカフェ・ネクスト（秋田大学主催）
アンケート集計結果



■参加者の声（抜粋）

- ・様々な分野の話を知ることができ、普及とは違う型に新鮮な感じを覚えました。将来を担う高校生の質問や意見をもう少し聞けたら…と思いました。
- ・介護、注意力、交通事故、とてもためになりました。気をつけたいと思います。
- ・交通事故が一番暗くて危ないから、夜が一番危険だと思っていたけれど、実際はそうでなく夕方が一番危険だということを知ることができました。この講演を通していろいろな事を学べたので、とても勉強になりました。

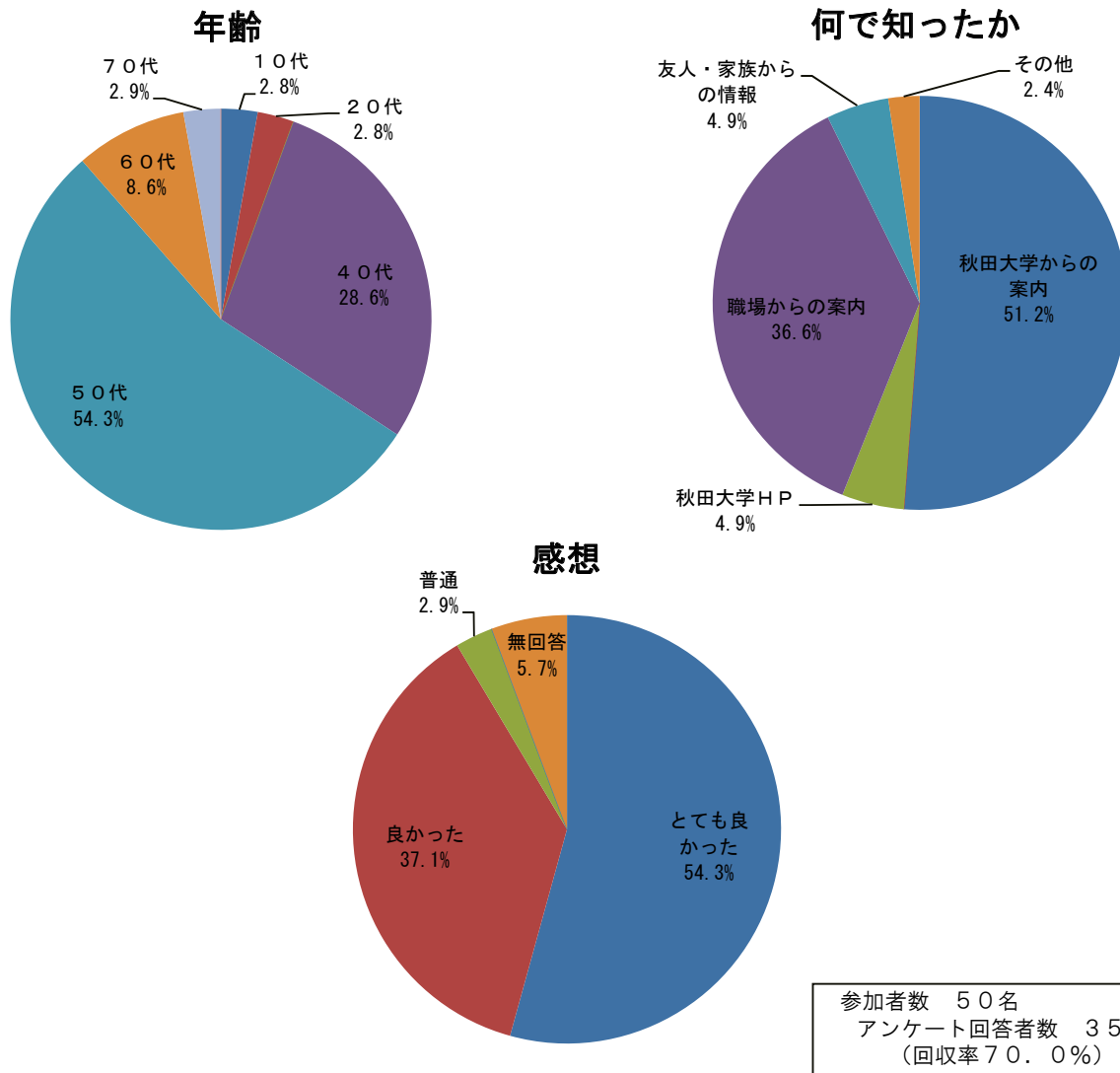
■アンケート分析

地元の高校生が約半数を占めたため、10代が一番多数となっている。

一般の方では、70代が多く、内容への興味を引かれたようだ。

評価はほぼ肯定的な意見であり、特に工学資源学研究科教員による「わたりジョーズ君」の実験に共感する部分が多かったようだ。他の2人の教員の講演もわかりやすく学べたとおおむね好評化であった。やはり健康・高齢化に関する講演はニーズがあり、定期的開催することでますます評価が高まることが期待できる。

「地域を生かした教員養成システム
～“教員養成秋田モデル”&横手分校の取り組み～」アンケート集計結果



■参加者の声（抜粋）

- ・昨日、本日と続けて参加させていただきました。近年、学校は地域、保護者との連携が強く求められていますが、ミニミニ実習及びシンポジウムの提言はその実現に向けて、とても示唆に富むものでした。
- ・教育の中央集権化、画一化、地域性、地域間の格差…と課題が山積みしている現状において、有意義な企画であり、参考になりました。地域からの解決策の模索に頑張ってください。
- ・今日は、学生という視点から様々な視野を学ばせて頂きました。又何かこのようなシンポジウムがあったら参加させて頂きたいと思います。

■アンケート分析

文部科学省を含めた県内外からの教育関係者約50名の参加を得て開催された。横手分校にて平成23年度から実施されている「教育ミニミニ実習」は、全国初めての取り組みであることから、その内容に興味を持たれた関係者が積極的に視察を行っていた。また、シンポジウムは、参考になったという意見の他に、内容的に時間が足りない、パネリストの発言にもっと時間をかけるべきなどの意見があり、今後同様の企画の際の参考とした。

1.5 他部局主催 (年度計画推進経費による)

事業数：6件



●事業内容

地域創生センターの年度計画推進経費により、他部局で催行する社会貢献事業を支援している。

●事業成果と課題

天文台イベントや憩いのコンサート、附属ものづくり創造工学センターにおけるものづくり教室など、定期的に行われるイベントは毎回好評を博している。

その他にも、広く市民を対象とした科学教室など、秋田大学への理解を深めてもらえるような事業を多く開催することができた。



実施事業

(1) 秋田大学天文イベント

実施日 平成25年4月6日(土)～平成26年3月15日(土)

会場 秋田大学教育文化学部天文台

一般市民や中高生を対象として、天文台に親しみ活用してもらうことを目的に開催。45cm大型反射望遠鏡「ミルエル」での天体観測の他、星空案内人資格認定講座や天文講演会などを実施し、多くの市民が参加した。

| | 実施日 | 内容 | 担当講師 |
|---|------------------|--|---------------------------------|
| ① | 平成25年 4月6日(土) | イベント①星空案内人資格認定講座 「星空案内人(準案内人)認定書授与式」 | 秋田大学教育文化学部 教授 林信太郎 |
| | | イベント②天文講演会 「2013年2月15日ロシアに落下した隕石について」 | |
| | | イベント③市民のための夜間天体観察会 「木星とM81・M82 銀河の観察」 | |
| ② | 5月4日(土) | イベント①天文講演会 「秋田の地動説一佐藤信淵の天柱記を中心として一」 | 秋田大学教育文化学部 教授 上田晴彦 |
| | | イベント②市民のための夜間天体観察会 「木星・土星, M53 球状星団の観察」 | |
| | | 第1回 天文をテーマにした学習会 「天文をテーマにした情報交換」 | |
| ③ | 5月18日(土) | 第1回 天文をテーマにした発表会 「春の星空物語」 | 秋大星友の会, 準星空案内人, 天文ボランティア 黒田修 |

| | | | |
|---|-----------|---|----------------------------------|
| ④ | 6月1日(土) | イベント①天文講演会 「実験太陽系科学：クレーターをつくる」 | 秋田大学教育文化学部 教授 川村教一 |
| | | イベント②市民のための夜間天体観察会 「水星・金星・土星，M51 子持ち銀河の観察」 | |
| | | 第2回 天文をテーマにした学習会 「天文をテーマにした情報交換」 | |
| ⑤ | 6月15日(土) | 第2回 天文をテーマにした発表会 「流れ星のおはなし」 | 秋大星友の会，星空案内人（準案内人），天文ボランティア 信太浩信 |
| ⑥ | 7月6日(土) | イベント①天文講演会 「日時計を作ってみよう」 | 秋田大学教育文化学部 総括技術長 成田堅悦 |
| | | イベント②市民のための夜間天体観察会 「金星・土星，M5 球状星団の観察」 | |
| | | 第3回 天文をテーマにした学習会 「天文をテーマにした情報交換」 | |
| ⑦ | 7月27日(土) | 第3回 天文をテーマにした発表会（天文サイエンスカフェ） 「星の明るさと色」 | 秋大星友の会、天文ボランティア 京野真悦 |
| ⑧ | 8月3日(土) | イベント①天文講演会 「ミルエルを使った天体観測について」 | 秋田大学教育文化学部 技術系職員 毛利春治 |
| | | イベント②市民のための夜間天体観察会 「金星と土星，M13 球状星団の観察」 | |
| | | 第4回 天文をテーマにした学習会 「天文をテーマにした情報交換」 | |
| ⑨ | 8月17日(土) | 第4回 天文をテーマにした発表会 「宇宙の年齢について」 | |
| ⑩ | 9月7日(土) | イベント①星空案内人資格認定講座 「第1回 さあ，はじめよう」 | 秋田大学教育文化学部 教授 上田晴彦 |
| | | イベント②市民のための夜間天体観察会 「火星，M57 リング星雲の観察」 | |
| | | 第5回 天文をテーマにした学習会 「天文をテーマにした情報交換」 | |
| ⑪ | 10月5日(土) | イベント①星空案内人資格認定講座 「第2回 望遠鏡を使ってみよう」 | にかほ市立平沢小学校 教諭，星空案内人（準案内人）佐藤智幸 |
| | | イベント②市民のための夜間天体観察会 「金星，M57 リング星雲の観察」 | |
| ⑫ | 10月19日(土) | 秋田大学教育文化学部天文台特別イベント 「秋田大学祭，特別一般公開」 | |
| ⑬ | 11月2日(土) | イベント②星空案内人資格認定講座 「第3回 星の文化に親しむ」 | 秋田大学教育文化学部 教授 川村教一 |
| | | イベント②市民のための夜間天体観察会 「金星とM2 球状星団の観察」 | |
| | | 第6回 天文をテーマにした学習会 「天文をテーマにした情報交換」 | |
| ⑭ | 11月16日(土) | 第6回 天文をテーマにした発表会（天文サイエンスカフェ） 「アイソン彗星について」 | |
| ⑮ | 11月17日(日) | 「アイソン彗星の観察」 | |

▶他部局主催

| | | | |
|---|-------------------|--|------------------------------------|
| ⑯ | 12月7日(土) | イベント①星空案内人資格認定講座 「第4回 望遠鏡のしくみ」 | にかほ市立平沢小学校 教諭、星空案内人(準案内人) 佐藤智幸 |
| | | イベント②市民のための夜間天体観察会 「月・金星, M31 アンドロメダ大銀河の観察」 | |
| | | 第7回 天文をテーマにした学習会 「天文をテーマにした情報交換」 | |
| ⑰ | 平成26年 1月11日(土) | イベント①星空案内人資格認定講座 「第5回 星座をみつけよう」 | 秋田大学教育文化学部 総括技術長 成田堅悦 |
| | | イベント②市民のための夜間天体観察会 「月・木星, ペルセウス座二重星団の観察」 | |
| | | 第8回 天文をテーマにした学習会 「天文をテーマにした情報交換」 | |
| ⑱ | 1月25日(土) | 第8回天文をテーマにした発表会(天文サイエンスカフェ) 「アイソン彗星と1月・2月の天文現象について」 | 秋大星友の会, 星空案内人(準案内人), 天文ボランティア 信太浩信 |
| ⑲ | 2月1日(土) | イベント①星空案内人資格認定講座 「第6回 宇宙はどんな世界」 | 秋田大学教育文化学部 教授 上田晴彦 |
| | | イベント②市民のための夜間天体観察会 「月, 水星, 木星, M45(すばる)の観察」 | |
| | | 第9回 天文をテーマにした学習会 「天文をテーマにした情報交換」 | |
| ⑳ | 2月15日(土) | 天文学をテーマにした発表会(天文サイエンスカフェ) 身近な天文学や最新の天文学について | |
| ㉑ | 3月1日(土) | イベント①星空案内人資格認定講座 「第7回 星空案内の実際」 | 秋田大学教育文化学部 技術専門員 毛利春治 |
| | | イベント②市民のための夜間天体観察会 「木星とM42 オリオン大星雲の観察」 | |
| | | 天文をテーマにした学習会 「天文をテーマにした情報交換」 | |
| ㉒ | 3月15日(土) | 天文をテーマにした発表会 「最新の天文学や身近な天文について」 | |

(2) 秋大憩いのコンサート

実施期間 平成25年4月20日(土)～平成26年3月29日(土) 計12回

会 場 秋田大学インフォメーションセンター

平成22年4月に手形キャンパスに開設したインフォメーションセンターを広く知ってもらい、社会貢献に活用するために開催した。月1回、全12回にわたって、本学教員や学生、卒業生等が出演した。

| | 実施日 | 内 容 |
|------|-------------------|---|
| 第31回 | 平成25年 4月20日(土) | 北欧の抒情 (グリーグ、シベリウス…北欧の小品を集めて) 演奏：教育文化学部音楽教育講座 准教授 斎藤洋 (ピアノ) |
| 第32回 | 5月26日(土) | 癒しと情熱 ～マリンバ・コンサート～学生によるフレッシュ・コンサート (安倍圭子 愛の喜び「モノローグ」/モンティ チャールダッシュ ほか) 演奏：教育文化学部音楽教育講座 准教授 斎藤洋 (ピアノ) 加賀谷田鶴子 (マリンバ) |
| 第33回 | 6月23日(日) | にぎやか6手連弾 (J・シュトラウス ラデツキー行進曲/ビゼー (カルメン) 序曲 ほか) 演奏：教育文化学部音楽教育講座 准教授 斎藤洋 (ピアノ6手連弾) 大山英子、齊藤秋子 |
| 第34回 | 7月28日(日) | 名曲で綴る珠玉のプレリュード (バッハからラフマニノフまで) 演奏：佐藤和穂 (ピアノ) 三浦天道 (ピアノ) |
| 第35回 | 8月18日(日) | 夏のメロディー (ノブロ メロディー ほか) 演奏：畠山久雄 (フルート) 畠山由美 (ピアノ) |
| 第36回 | 9月14日(土) | 歌の不思議 (歌詞が同じで異なる作曲家の作品) 演奏：教育文化学部音楽教育講座 准教授 爲我井壽一 (テノール) 富樫彩子 (ピアノ) |
| 第37回 | 10月26日(土) | ピアノの宝石箱 (「トルコ行進曲」「英雄ポロネーズ」…ピアノ名曲のすべて) 演奏：清水洋子 (ピアノ) |
| 第38回 | 11月30日(土) | ロシアより愛をこめて (チャイコフスキー、ラフマニノフ…ロシアの作品を集めて) 演奏：教育文化学部音楽教育講座 准教授 斎藤洋 (ピアノ) 安藤満里 (クラリネット) |
| 第39回 | 12月14日(土) | 学生によるクリスマス・コンサート 演奏：音楽教育講座2年生 (ピアノ、声楽、管楽器、合唱) |
| 第40回 | 平成26年 1月26日(日) | 西洋音楽事始め (幸田延、滝廉太郎…日本における初期の洋楽作品を発掘) 演奏：教育文化学部音楽教育講座 准教授 斎藤洋 (ピアノ) 准教授 爲我井壽一 (テノール) 堀谷睦美 (ピアノ) 北島奏子 (バイオリン) |
| 第41回 | 2月23日(日) | 気分はアメリカン (フォスター、ジョプリン、ガーシュイン…アメリカの小品を集めて) 演奏：教育文化学部音楽教育講座 准教授 斎藤洋 (ピアノ) |
| 第42回 | 3月29日(土) | 青春の想いと旅の歌曲 (シューベルトの”三大歌曲集”から抜粋) 演奏：教育文化学部音楽教育講座 准教授 爲我井壽一 (テノール) 富樫彩子 (ピアノ) |

3) 子どもものづくり教室

子どもたちを対象に、ものづくりを通して科学や宇宙へ興味を持ってもらうことを目的に平成21年度から実施している。今年度は10回に渡って開催した。参加者は、身近なものを使った作品づくりを通して、ものづくりの楽しさを実感した様子だった。

①第1回「大型ペーパークラフト作りに挑戦」

実施日 平成25年4月22日(月)
 会場 ものづくり創造工学センター創造組み立て作業室
 担当講師 秋田大学大学院工学資源学研究科
 附属ものづくり創造工学センター
 センター長・教授 神谷修
 副センター長・講師 和田豊
 秋田大学大学院工学資源学研究科
 地球資源学専攻 助教 坂中伸也
 秋田大学大学院工学資源学研究科
 環境応用化学専攻 准教授 高橋博
 技術職員 関啓亮
 技術系補佐員 齊藤亜由子
 センタースタッフ 加藤隆一

自宅では大判プリンタを使わないと作ることが困難な大型ペーパークラフトを、センター所有の大判プリンタで印刷した型紙で製作してもらいます。展開図の仕組みを学びながら、ペーパークラフトの楽しさを体験してもらうことを目的に開催した。

②第2回「大型水ロケット作りに挑戦」

実施日 平成25年5月26日(日)
 会場 ものづくり創造工学センター創造組み立て作業室
 担当講師 秋田大学大学院工学資源学研究科
 附属ものづくり創造工学センター
 センター長・教授 神谷修
 副センター長・講師 和田豊
 秋田大学大学院工学資源学研究科
 生命科学専攻 准教授 藤原一彦
 秋田大学大学院工学資源学研究科
 材料工学専攻 講師 棗千修
 技術職員 関啓亮
 技術系補助員 齊藤亜由子
 センタースタッフ 加藤隆一
 秋田大学生

今回作る大型水ロケットは1.5Lのペットボトルを3本使用し、このうちの2本を連結し、より多くの水と空気を詰めて飛ばします。タンクの容量が2倍になることで、水と空気をどのくらい入れると最も高く飛ぶのか考えながら製作をし、打上げ体験を行った。

③第3回「ものづくりチャレンジシリーズ より遠くへ飛ばせ！投てき装置作りに挑戦」

実施日 平成25年6月30日(日)
 会場 ものづくり創造工学センター創造組み立て作業室
 担当講師 秋田大学大学院工学資源学研究科
 附属ものづくり創造工学センター
 センター長・教授 神谷修
 副センター長・講師 和田豊
 秋田大学大学院工学資源学研究科
 情報工学専攻 助教 藤原克哉
 秋田大学大学院工学資源学研究科
 電気電子工学専攻 講師 河村希典
 技術職員 関啓亮
 技術系補助員 齊藤亜由子
 センタースタッフ 加藤隆一

ものづくりチャレンジ！と題して簡単な投てき装置を製作し、油粘土をより遠くへ飛ばすことを競い合う大会を行い、飛ばす油粘土の重さは自由で、「油粘土の重さ×飛距離×飛距離」を記録ポイントとし、ポイントの高さを競います。より重い粘土を、より遠くに飛ばすことができる装置の製作を行った。

④第4回「工具の使い方教室シリーズ 小刀を使って竹トンボを作ろう」

実施日 平成25年7月21日(日)
 会場 ものづくり創造工学センター創造組み立て作業室
 担当講師 秋田大学大学院工学資源学研究科
 附属ものづくり創造工学センター
 センター長・教授 神谷修
 副センター長・講師 和田豊
 秋田大学大学院工学資源学研究科
 土木環境工学専攻 准教授 荻野俊寛
 秋田大学大学院工学資源学研究科
 共同ライフデザイン工学専攻
 准教授 山口邦彦
 技術職員 関啓亮
 技術系補助員 齊藤亜由子
 秋田大学生

危険と思われがちな工具に対して、正しい知識と安全な使い方を学ぶ「工具の使い方教室シリーズ」と題して、小刀を使った竹トンボの製作を行った。

⑤第5回「能代宇宙イベントモデルロケット打上体験と宇宙開発の本物見学会」

実施日 平成25年8月25日(日)

会場 ものづくり創造工学センター創造組み立て作業室

担当講師 秋田大学大学院工学資源学研究科
附属ものづくり創造工学センター
センター長・教授 神谷修
副センター長・講師 和田豊
秋田大学大学院工学資源学研究科
環境資源学研究センター
准教授 菅原透
秋田大学大学院工学資源学研究科
機械工学専攻 准教授 菅原佳城
技術職員 関啓亮
技術系補助員 齊藤亜由子
秋田大学生

毎年夏に秋田県能代市で開催されている能代宇宙イベント内でモデルロケットの打上体験と、大学生らによる本格的なロケットや人工衛星の展示見学、さらには大型ロケットの打ち上げ見学を行った。

⑥第6回「メッキについて学ぼう」

実施日 平成25年9月29日(日)

会場 ものづくり創造工学センター創造組み立て作業室

担当講師 秋田大学大学院工学資源学研究科
附属ものづくり創造工学センター
センター長・教授 神谷修
副センター長・講師 和田豊
秋田大学大学院工学資源学研究科
材料工学専攻 講師 棗千修
秋田大学大学院工学資源学研究科
地球資源学専攻 助教 坂中伸也
技術職員 関啓亮
技術系補助員 齊藤亜由子
技術部 三浦敏秋
小松芳成
菅原和久
高橋知也
佐藤菜花

「メッキについて学ぼう」と題して化学とものづくりを体験できる教材としてメッキを使ったキーホルダー製作を行い、種々のメッキ方法がありますが、そもそも、メッキとはどういうことなのか、どの様な事をするのかを学び、オリジナルキーホルダーの製作を行った。

⑦第7回「スパゲティータワーを建てよう!〜」

実施日 平成25年10月20日(日)

会場 ものづくり創造工学センター創造組み立て作業室

担当講師 秋田大学大学院工学資源学研究科
附属ものづくり創造工学センター
センター長・教授 神谷修
副センター長・講師 和田豊
秋田大学大学院工学資源学研究科
生命科学専攻 准教授 藤原一彦
技術職員 関啓亮
技術系補助員 齊藤亜由子
技術部 永作清
石川広美
田村オリエ
小松和三

「スパゲティータワーを建てよう!」と題し身近な素材である「パスタ」と「ホットボンド」を使ってより高いタワーを立て、「構造物」の強度について興味を持ってもらうことを目的に製作を行った。

⑧第8回「石から絵具を作ろう」

実施日 平成25年11月17日(日)

会場 ものづくり創造工学センター創造組み立て作業室

担当講師 秋田大学大学院工学資源学研究科
附属ものづくり創造工学センター
センター長・教授 神谷修
副センター長・講師 和田豊
秋田大学大学院工学資源学研究科
地球資源学専攻 助教 坂中伸也
秋田大学大学院工学資源学研究科
情報工学専攻 助教 藤原克哉
技術職員 関啓亮
技術系補助員 齊藤亜由子
技術部 川原谷浩
菊地良栄
千田恵吾
江川元太
加賀谷史
佐藤祐美

「石から絵具を作ろう」と題して、顔料となる鉱物から岩絵の具を作り、葉書に絵を描く教室を行った。

⑨第9回「ぶんぶんゴマで電気をおこそう！」

実施日 平成25年12月15日(日)
 会場 ものづくり創造工学センター創造組み立て作業室
 担当講師 秋田大学大学院工学資源学研究所
 附属ものづくり創造工学センター
 センター長・教授 神谷修
 副センター長・講師 和田豊
 秋田大学大学院工学資源学研究所
 土木環境工学専攻 准教授 荻野俊寛
 秋田大学大学院工学資源学研究所
 電気電子工学専攻 講師 河村希典
 技術職員 関啓亮
 技術系補助員 齊藤亜由子
 技術部 谷口智行
 加藤陽介
 高橋毅
 齋藤翼
 伊藤慶郎

「ぶんぶんゴマで電気をおこそう」と題して、ぶんぶんゴマに磁石を取り付け、コイルのそばで回すことにより電気をおこし、LEDを光らせる仕組みを学び、コイルと磁石があれば発電できることを体験してもらうこと目的に行った。

⑪第11回「4足歩行ロボット」

実施日 平成26年2月23日(日)
 会場 ものづくり創造工学センター創造組み立て作業室
 担当講師 秋田大学大学院工学資源学研究所
 附属ものづくり創造工学センター
 センター長・教授 神谷修
 副センター長・講師 和田豊
 秋田大学大学院工学資源学研究所
 機械工学専攻 准教授 菅原佳城
 秋田大学大学院工学資源学研究所
 機械工学専攻 教授 長縄明大
 技術職員 関啓亮
 技術系補助員 齊藤亜由子
 センタースタッフ 加藤隆一
 ロボコン愛好会メンバー

4足歩行ロボットの歩く仕組みと制作方法について説明を聴き、製作を行った。教室の最後には、すもうロボットプロジェクトから実際に大会にも出場している本物のすもうロボットの紹介があり、簡単な動かしかたの説明を受けた後、子どもたちは順番に土俵の上ですもうロボットの操縦体験を行った。

⑩第10回「エコステンドライト」

実施日 平成26年1月26日(日)
 会場 ものづくり創造工学センター創造組み立て作業室
 担当講師 秋田大学大学院工学資源学研究所
 附属ものづくり創造工学センター
 センター長・教授 神谷修
 副センター長・講師 和田豊
 秋田大学大学院工学資源学研究所
 共同ライフサイクルデザイン
 准教授 山口邦彦
 秋田大学大学院工学資源学研究所
 環境資源学研究センター
 准教授 菅原透
 技術職員 関啓亮
 技術系補助員 齊藤亜由子
 センタースタッフ 加藤隆一

日中に太陽光パネルで発電した電気を蓄電池へ充電し、暗い時には蓄電池に充電された電気を利用してライトが光る「エコステンドライト」の製作を行った。

⑫第12回「～ビスケットでゲーム作りにチャレンジ！～基礎編・応用編」

実施日 平成26年3月16日(日)
 会場 ものづくり創造工学センター創造組み立て作業室
 担当講師 秋田大学大学院工学資源学研究所
 附属ものづくり創造工学センター
 センター長・教授 神谷修
 副センター長・講師 和田豊
 秋田大学大学院工学資源学研究所
 地球資源学専攻 助教 坂中 伸也
 秋田大学大学院工学資源学研究所
 環境応用化学専攻 准教授 高橋 博
 技術系補助員 齊藤亜由子
 秋田大学3D化プロジェクトメンバー

専門的な知識がない小学生でも簡単に操作することができるビジュアルプログラミング言語「ビスケット」を使い、初心者は基礎編として簡単なアニメーション、経験者は応用編としてシューティングゲームなどそれぞれ思い思いのゲーム・アニメーション作りを行った

(4) 親子環境教室

実施日 平成25年8月7日(水)
 会場 秋田大学大学院工学資源学研究科附属鉱業博物館
 担当講師 秋田大学大学院工学資源学研究科
 環境応用化学研究室



環境問題に対する意識向上と科学への興味を引き出すことを目的に実施した。環境低負荷型技術や材料をキーワードに演示実験を行い、環境リテラシーの涵養と理工学離れを防ぐための実践型教育を通して環境コミュニケーションを積極的に推進する機会となった。

(5) 秋田大学総合技術部 第5回テクノフェスタ「来て、見て、体験してみよう！」

実施日 平成25年11月9日(土)
 会場 秋田拠点センター・アルヴェ きらめき広場
 担当 秋田大学総合技術部



秋田大学の教育研究等だ利用される専門技術について、地域で広く知ってもらうため、平成21年度から開催している。今年度はカイロ作りや金属パズル、野菜や果物からのDNA抽出体験など11の体験ブースが設置され、多くの家族連れで賑わった。

(6) 秋田土壌浄化コンソーシアム 平成25年度教育・啓発事業

子ども科学教室「土の科学」

実施日 平成25年12月27日(金)
 会場 秋田大学ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー
 大セミナー室、リサイクル関係実験室
 秋田大学大学院工学資源学研究科
 環境応用化学専攻実験室
 担当講師 秋田大学大学院工学資源学研究科
 環境応用化学研究室



土壌や水の浄化等の環境における技術をテーマに、環境問題に対する意識向上と科学への興味を引き出すことを目的に開催した。参加者は土や石に関する実験教室および研究施設の見学を行った。また、実験教室では、秋田県産珪藻土や火山灰などの鉱物を顕微鏡で観察するコーナーなど6種類の実験を通して環境や自然との共生について考える機会となったようだった。

1. 6 その他

(1) 秋田県赤十字血液センターによる献血事業への協力

今年度も引き続き秋田県赤十字血液センターの献血事業への協力として、献血カーの受入を年間19件行った。学内への献血カー運行の際など、学生や教職員に対して献血事業への興味・関心を深め、献血活動へ協力してもらうことを目的とし、学内周知に力を入れた。

(2) 「秋田大学キャンパスガイドマップ」の作成

「地域に開かれた大学」を目指した活動の一環として、平成21年度から作成し、大学見学受入やイベント等の際に配布し、好評を得ている。平成25年度は内容の整理と地図内の表示をよりわかりやすくなるよう改訂を加えた。



地域防災部門

地域防災部門長あいさつ

地域創生センター 教授・地域防災部門長
水田 敏彦

2011年3月11日に発災した東日本大震災から早いもので3年が経過しました。地震から6週間後に現地入りして以降、2013年3月までに12回の現地調査を行いました。最近では3年後の3月29日と30日に宮城県の南三陸町から福島県南相馬市までの範囲で現地踏査を行いました。被災地では宮城県、岩手県の瓦礫処理に目処がつくなど復興の進展も見られますが、仮設住宅で暮らす人も多く生活の再建にはたいへん時間がかかっています。私たちの住むこの東北にはまだまだ多くの人が、その影響で苦しんでいるのです。一方、時間の経過とともに全国的な関心は薄れてきました。私たちは防災の重要性を学んだはずですが、決して忘れてはいけません。秋田県では、仙北地方に大きな被害をもたらした1914年「秋田仙北（強首：こわくび）地震」から、今年の3月15日でちょうど100年になります。このような地震がもたらした未曾有の被害を忘れることなく、災害の特性を知り、日頃から備えておくことが重要です。

さて、秋田大学地域創生センター地域防災部門は2011年（平成23年）9月に設置され、2年半が経過しました。秋田県の特性を考慮した地域防災に関する調査研究、防災について地域で活動できる人材育成、県及び市町村への防災活動支援を行うことを使命としています。専任教員わずか2名の小さな部門ですが、この使命を踏まえ、学内外からの多くの方々の力を借りて、秋田県で発生が考えられる多様な災害研究の推進、防災教育・啓発活動などを進めています。

本報告書は、平成25年度における地域創生センター地域防災部門の1年間の活動状況をまとめたものです。みなさまの忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

2. 1 秋田県の特性を考慮した 地域防災のあり方に関する調査・研究

(1) 秋田県および日本海側北部地域における過去の地震・津波痕跡に関する調査

実施期間 通年

場 所 男鹿市、潟上市、にかほ市

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 准教授 鎌滝孝信

秋田県沿岸地域（男鹿市・潟上市・にかほ市）において過去の地震・津波痕跡に関する調査を実施した。その結果、秋田県にも過去に巨大津波が襲来していた可能性が明らかになってきた。しかしながら、そのような巨大津波の履歴や再来間隔や地理的影響範囲に関する知見は不十分である。今後は巨大津波襲来の根拠に関する確実度を上げること、さらに津波の再来間隔や地理的な影響範囲を明らかにするための調査・研究を進めていく。

(2) 潟上市における地震・津波防災、減災に関する研究

実施期間 通年

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 准教授 鎌滝孝信

潟上市からの委託により、潟上市における過去の津波痕跡調査および地盤の振動特性に関する調査研究を実施した。その結果、潟上市でも過去に巨大津波の被害を受けてきたことを否定できないため、住民の津波防災に関する意識の向上を含めた早急な対策が必要なことがわかってきた。今後この研究成果を基に、潟上市防災会議等において、潟上市の地域特性を考慮した地震・津波防災、減災についての以下の内容の提言をおこなっていく。

(3) 高齢化・過疎地域における防災力維持に関する研究

実施期間 通年

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 教授・地域防災部門長 水田敏彦
准教授 鎌滝孝信

積雪寒冷地かつ高齢社会における地域防災力の向上という秋田県の市町村が持つ共通の課題に着目し、横手市および潟上市をモデル地域とした以下の研究を実施する。横手市と共同で「豪雪地域における積雪期の地震防災に関する研究」を、潟上市と共同で「広い低平地における津波防災に関する研究」を平成25年度から5年間の計画で実施することとなった（COC事業）。これらの研究のなかでは、「防災・減災活動における行政・防災機関、学校、企業、市民の役割分担」に関しても言及し、平成26年度以降、市町村に対する施策の提言、

市民に対する防災啓発活動をより強化していく。

(4) 防災教育に関する研究

実施期間 通年

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 教授・地域防災部門長 水田敏彦
准教授 鎌滝孝信

平成25年度から県内の小中学校の児童・生徒、保護者、教職員を対象とした防災意識に関するアンケートを中心とした調査研究を開始した。この研究では、県内各地で当センターが実施している防災教育の効果に関する検証を通して、県内における適切な防災教育の内容を検討する。この研究成果は、「秋田県の地域特性を考慮した防災教育プログラムの作成」につながり、平成26年度から早速この研究成果を生かした内容で防災教育を実施していく。

(5) 土砂災害危険時の自治体と住民との減災情報共有技術に関する研究

実施期間 通年

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 教授・地域防災部門長 水田敏彦

本研究は、秋田県の土砂災害の防止・軽減化に貢献する、自治体・住民間の減災情報（災害・防災情報）支援システムの実現が目的である。平成25年度に開発した土砂災害時空間情報処理システムは、斜面危険度評価法と時空間地理情報システムを発展させ、従来は不可能だった土砂災害危険情報の行政や住民、消防本部等へのリアルタイムな提供を可能にした。従来の土砂災害情報の入手・伝達技術は、リアルタイム情報の利活用、自治体・住民間での情報の断片化、などの問題があった。本研究の実施により、平常時の自治体による危険箇所確認・修復、警戒時の住民による主体的な危険判断、災害発生時における自治体の迅速な対応を支援できるシステムを提示できる。

(6) 秋田県沿岸市町村への津波等に関するアンケート調査（続）

実施期間 通年

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 地域防災アドバイザー 野越三雄

秋田大学地域創生センター地域防災部門（野越三雄地域防災アドバイザー担当）では今まで殆ど調査対象とされなかった各自治体では津波被害対策にどのように対応しているかに注目し、平成24年9月秋田県沿岸の6市2町1村（北から八峰町、能代市、三種町、大潟村、男鹿市、潟上市、秋田市、由利本荘市、にかほ市）にアンケート調査を実施し、結果を纏めている。平成24年12月29日秋田県は津波被害対策の緊急性に鑑み、『秋田県「地震被害想定調査」に係わる津波関連データ』を公表した。この後約1年を経過したので当センター地域防災部門（野越三雄地域防災アドバイザー担当）が前回と同主旨の2回目のアンケート調査を実施した

ものである。

(7) 強震計を用いた地震観測記録

実施期間 通年

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 教授・地域防災部門長 水田敏彦

特に秋田市における地震災害の防災・被害軽減化に貢献する、秋田大学手形キャンパスにおける地震観測を実施し、地震災害危険度について検討を行った。

(8) 緊急地震速報装置設置による精度等研究

実施期間 通年

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 地域防災アドバイザー 野越三雄

装置は2012年に端末装置（震度3以上）として本研究室内に設置して作動を監視しているが、今年度（2013年4月1日～3月14日現在）には該当の震度3以上の地震は秋田市では観測されていないことから、作動は無かったものと判断した。又、事実判定については正確を期するため、秋田地方気象台、当装置管轄の秋田ケーブルテレビに問い合わせたところ間違い無いとの返事を頂いている。今後は秋田ケーブルテレビと提携して、同地震で作動した周辺の装置の状況を調査することとした。

(9) 北海道太平洋沿岸地域調査および避難施設調査

実施日 平成25年4月3日（水）～4月6日（土）

場 所 北海道広尾町、えりも町、豊頃町

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 准教授 鎌滝孝信

北海道太平洋沿岸地域における津波避難施設および沿岸地域の調査を行った。

(10) 潟上市研究打ち合わせ

実施日 平成25年4月25日（木）

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 准教授 鎌滝孝信

潟上市市民生活部市民生活環境課職員に対し、平成24年に実施した潟上市からの受託研究の結果説明を行い、さらに今後の研究方針について打合を行った。

(11) 八峰町沿岸における津波痕跡調査

実施日 平成25年5月2日(木)

担当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 准教授 鎌滝孝信

八峰町沿岸域において、過去の津波痕跡に関する調査を実施した。

(12) 青森県鱒ヶ沢町沿岸における津波痕跡調査

実施日 平成25年6月5日(水)

担当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 准教授 鎌滝孝信

青森県鱒ヶ沢町沿岸(赤石川河口周辺)において、過去の津波痕跡に関する研究を行った。

(13) 土砂災害危険情報リアルタイム評価システムに関する打合わせ

実施日 平成25年6月10日(月)

場所 鹿角市

担当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 教授・地域防災部門長 水田敏彦

ファイブテックリンクにおいて、土砂災害危険情報リアルタイム評価システムの打合わせおよび受託研究に関する情報収集を行った。

(14) 秋田国家石油備蓄基地における長周期地震動特性に関する研究(受託研究)

実施期間 平成25年7月～平成26年2月26日(水)

場所 男鹿市

担当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 教授・地域防災部門長 水田敏彦

秋田国家石油備蓄基地の長周期地震動に対する石油タンクの地震対策に必要な地位の特性を踏まえた長周期地震動を検討するため、これまでに観測された基地内の地震記録の解析を行った。さらに、予測精度が高く信頼性の高い地震動評価のため、常時微動を利用した地下構造調査を実施した。調査結果については、報告書により秋田国家石油備蓄基地に報告した。

(15) にかほ市市民会議参加

実施日 平成25年9月26日(木)

担当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 准教授 鎌滝孝信

「にかほ市地域防災計画の改定に関わる市民会議」に参加し、秋田県地震被害想定調査の結果について説明した。

(16) 八峰町ジオパーク推進協議会研究打ち合わせ

実施日 平成25年10月23日（水）

担当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 教授・地域防災部門長 水田敏彦
 准教授 鎌滝孝信
 主査 利 勝利

八峰町を含めた秋田県沿岸域における小学校等での防災授業の実施を予定していたことから、八峰町白神ジオパーク推進協議会工藤英美会長と打合せし、実施について計画した。

(17) 秋田県、青森県沿岸部調査

実施日 平成25年11月9日（土）

場所 青森県深浦町沿岸域（秋田県含む）

担当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 准教授 鎌滝孝信

1793年西津軽地震および1704年岩館地震の痕跡調査を行った。

(18) にかほ市役所研究打ち合わせ

実施日 平成25年11月15日（金）

担当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 准教授 鎌滝孝信

にかほ市防災課と津波痕跡調査の内容について説明し、調査予定地点の地権者に関する情報を教えていただくとともに、過去にかほ市が実施した周辺のボーリングデータの提供を依頼した。

(19) 美郷町現地調査

実施日 平成25年11月16日（土）

場所 美郷町

担当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 准教授 鎌滝孝信

1896年の陸羽地震の際に活動した千屋断層の現地調査を行った。

(20) ボーリングコア試料の解析作業

実施日 平成26年1月19日（日）～1月21日（火）
平成26年2月23日（日）～2月26日（水）
場 所 応用地質株式会社エネルギー事業部（埼玉県さいたま市）
担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 准教授 鎌滝孝信

秋田県潟上市およびにかほ市で掘削したボーリングコア試料の解析作業を行った。

(21) 住宅の振動調査

実施日 平成26年2月24日（月）
場 所 横手市
担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 教授・地域防災部門長 水田敏彦

横手市内の住家において、振動調査を行った。

(22) 2013年日本地球惑星科学連合大会における発表

実施日 平成25年5月23日（木）～5月24日（金）
場 所 千葉県
担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 准教授 鎌滝孝信

『2013年日本地球惑星科学連合大会』の津波堆積物のセッションに参加し、発表を行った。

(23) 建築学会における発表

実施日 平成25年8月29日（木）～9月1日（日）
場 所 北海道
担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 教授・地域防災部門長 水田敏彦

『建築学会』にて発表を行い、さらに当学会における講演を聴講し情報収集を行った。

(24) 安全教育学会における発表

実施日 平成25年9月7日（土）～9月8日（日）
場 所 明海大学（千葉県）
担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 教授・地域防災部門長 水田敏彦

『安全教育学会』にて発表し、さらに防災教育に関する情報収集を行った。

(25) 第30回歴史地震研究会（秋田大会）講演会における発表

実施日 平成25年9月14日（土）～9月16日（月）

場 所 秋田大学

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 地域防災アドバイザー 野越三雄

『第30回歴史地震研究会（秋田大会）講演会』へ参加し、「秋田最古の830年天長地震を探る」と題する研究発表を行った。

(26) 日本地質学会第120年学術大会における発表

実施日 平成25年9月16日（月）～9月18日（水）

場 所 東北大学（宮城県）

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 准教授 鎌滝孝信

『日本地質学会第120年学術大会』にて発表した。翌日は宮城県沿岸部等の東日本大震災被災地の現地調査を行った。さらに翌日には東北大学にて開催された第5回津波堆積物ワークショップに参加した。

(27) 自然災害学会における発表

実施日 平成25年9月22日（日）～9月26日（木）

場 所 北見工業大学（北海道）

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 教授・地域防災部門長 水田敏彦

『自然災害学会』で研究発表を行うとともに、受託研究に関する情報収集及び研究発表、土砂災害および震災復興の情報収集を行った。

(28) 平成25年度東北地域災害科学研究集会における発表

実施日 平成26年1月7日（火）～1月8日（水）

場 所 秋田大学（秋田市）

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 地域防災アドバイザー 野越三雄

『平成25年度東北地域災害科学研究集会』へ参加し、「秋田県沿岸市町村への津波等に関するアンケート調査（続）—平成24年末の『秋田県「地震被害想定調査」に係わる津波関連データ』公表後の対応について—」と題する研究発表を行った。

(29) 土木学会東北支部技術研究発表会におけるCOC事業研究報告

実施日 平成26年3月7日（金）～平成26年3月8日（土）

場 所 八戸工業大学（青森県）

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 准教授 鎌滝孝信

『土木学会東北支部技術研究発表会』に参加し、COCで実施している「秋田県の地域特性を踏まえた防災・減災教育のあり方に関する研究」の成果報告及び情報収集を行った。

2. 2 防災について地域で活動できる人材の育成

事業数：77回

(講演会等40回、出前授業37回)

参加者：10,001名

(講演会等3,719名、出前授業6,282名)



●事業内容

県内各幼保小中高等学校、特別支援学校、自主防災組織等での防災授業、講演会を実施した。教育機関における出前授業においては、防災教育は早い段階からの意識啓発が重要であることから、講義に加え、建物倒壊実験および津波発生実験を行うことにより体験による理論の把握を促した。また、自主防災組織を対象とした講義では、発災時に自主防災組織リーダーあるいは町内会が取るべき行動と、地域住民における日頃からの防災意識の喚起、避難所運営の際の注意点などを述べた。

●事業成果と課題

年度内77回の実施の実施により、約10,000名の受講者となった。今後は各学校の教員に対する防災教育を実施し、各学校単位で不断に防災教育ができるようにする。

実施事業

1) 講演会等

(1) 「秋田マルハ会講習会」講演

実施日 平成25年4月17日(水)

場所 秋田市

担当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 准教授 鎌滝孝信

参加者数 30名

秋田マルハ会会員を対象とした講演会。防災を考える際「災害を知り、地域を知る。そして知識を活かす」ことが必要であると説明。1995年兵庫県南部地震の被害状況について映像を交えながら日本の地震災害の多さについて解説した。また秋田県で過去に発生した地震について、当時の被害地域を現在の地図と重ね合わせて解説し、防災を考える上で「地域を知る」ことの大切さを説明した。

(2)「古城苑町内会防災講演会」講演

実施日 平成25年4月21日(日)

場所 秋田市

担当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 准教授 鎌滝孝信

参加者数 70名

古城苑町内会および近隣2町内会の会員を対象とした講演会。古城苑町内会が自主防災組織を結成することを検討していることから、防災・減災に関することを専門家から聞くことで、自主防災組織の結成に際する参考とすることを目的として実施した。

(3)「由利本荘市鳳山会防災講演会」講演

実施日 平成25年5月16日(木)

場所 由利本荘市

担当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 地域防災アドバイザー 野越三雄

参加者数 120名

由利本荘市鳳山会の会員を対象とした講演会。世界の震源分布やプレート、マグニチュードなどの地震における基本的なことを説明したあと、秋田県、そして由利本荘市において地震が発生した場合について詳しく解説した。当地域には北由利断層があることから、今後、地震の発生が考えられることを説明した。

(4)「秋田県石油コンビナート等防災管理者研修会」講演

実施日 平成25年5月17日(金)

場所 秋田市

担当 秋田大学地域創生センター地域防災部門

准教授 鎌滝孝信

参加者数 30名

秋田県石油コンビナート等特別防災区域協議会構成員を対象とした講演。日本は世界でも地震の多い国であること、約10年に1回は津波が発生していること等を述べ、普段から地震や津波に対する備えや訓練が必要であると解説。津波への対策として、予想される最大津波高や津波到達時間の資料をもとに、最大の被害を想定し、一人一人が考え行動することが大事であると述べた。



(5)「日本海中部地震30周年防災講演会」講演

実施日 平成25年5月21日(火)

場所 能代市

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 教授・地域防災部門長 水田敏彦

参加者数 800名

日本海中部地震発生から30年を迎え、市民のさらなる防災意識の高揚と、中学生に対する防災教育の推進を目的として能代市が開催。水田地域防災部門長のほか、東日本大震災で「釜石の奇跡」を生んだ片田敏孝教授（群馬大学）が講演し、日本海中部地震を含めた過去の災害の教訓をこれからの防災教育に役立てることについて考えた。水田地域防災部門長は中学生へのメッセージとして「理科あるいは社会の授業はとても重要。嫌いにならずに勉強して欲しい」と、普段の授業の大切さを述べた。そして能代市で地震が発生した場合の震度分布や津波により浸水すると予想される地域について詳しく説明し、日本全国どこでも地震は発生することを忘れず、一人ひとりが考え行動できるようになることを促した。

（6）日本海中部地震30周年シンポジウム

「日本海中部地震の教訓を明日へ伝える―過去から学び、未来へつなげるために―」

実 施 日 平成25年 5月26日（日）

場 所 男鹿市

担 当 秋田大学地域創生センター

参加者数 126名



1983年5月26日に秋田沖を震源として発生した日本海中部地震の発生から30年目を迎え、この災害を風化させず不断に未来へ引き継ぐことを目的として基調講演、パネルディスカッションにより、男鹿市、秋田県の地震・津波災害への対策について考えた。基調講演では、今泉俊文教授（東北大学大学院理学研究科）及び松富英夫教授（本学工学資源学研究科）が講演。今泉教授は、秋田県は活断層を原因として発生する地震に加え、日本海を震源とする海底地震も考えられること、海岸の隆起などの地形変化、それにより地盤沈下発生の可能性も考えられると解説した。松富教授は、日本海中部地震の詳細とその後の影響について解説があり、現在でも重要視されている情報孤立者への対応について述べた。パネルディスカッションでは、水田地域防災部門長をコーディネーターとし、男鹿市渡部幸男市長、田沼昭男氏（当時男鹿市職員）、鎌滝准教授、野越地域防災アドバイザーがパネラーとして登壇し「教訓を未来へ引き継ぐこと」をテーマに意見交換を行った。パネルディスカッション最後には参加者との質疑応答を行い、男鹿市の防災対策や、ハザードマップの信頼性などについて行政や市民それぞれの立場から活発な意見交換が行われた。

（7）「ママの防災教室津波・防災」講話

実 施 日 平成25年 5月31日（金）

場 所 能代市

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 准教授 鎌滝孝信

参加者数 10名

「こども未来ねっと能代」が育児中の母親を対象に行った講演会。宮城・内陸地震など過去の地震災害を例に挙げ、内陸でも大地震が起きる可能性がある」と説明した。フリートークでは、日本海中部地震と東日本太平洋沖地震の両方を経験された参加者の当時の話や地方による防災意識の違いについての話が出た他、ハザードマップの実際の活用方法についての質問や意見が活発に交わされた。

(8)「第14回日本赤十字看護学会学術集会」講演

実施日 平成25年6月22日(日)

場 所 秋田市

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 地域防災アドバイザー 野越三雄

参加者数 50名

日本赤十字看護学会において「自然災害(地震・津波)と日本列島の状況について」と題し講演。「災害と医療は結びつくもの、その災害について深く知って欲しい」と前置きし、日本は世界の中でも地震の多い国であること、現在確認されている秋田県沖のプレート境界や活断層の状況などについて説明した。

(9)「境田町内会防災講演会」講演

実施日 平成25年6月23日(日)

場 所 秋田市

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 地域防災アドバイザー 野越三雄

参加者数 30名

秋田市広面境田町内会会員を対象とした講演。地球規模から日本、東北そして秋田県における地震被害の話しへと順に説明し、秋田県の地震への備えについて「地震が多い県であることを自覚し日頃から地震への関心を忘れないこと、そのうえで避難訓練を行うことが重要」と災害発生時における自助の重要性について述べた。さらに、緊急地震速報の性能と有用性について説明し、町内会等における活用を促した。

(10)「秋田県自主防災アドバイザー防災講演会」講演

実施日 平成25年6月25日(火)

場 所 秋田市

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 准教授 鎌滝孝信

参加者数 10名

秋田県が委嘱する、地域における防災活動の活性化を促す「自主防災アドバイザー」を対象とし、活動の参考となるような実践的なカリキュラムにより実施。過去に秋田県で発生した地震・津波災害について説明

し「秋田県においては海域における地震と内陸直下型の地震の両方の発生が考えられる。地震が多い県であることを認識し日頃の防災活動を行って欲しい」と、不断の防災活動の重要性について提言した。

(11)「秋田石油備蓄株式会社フォーラム」講演

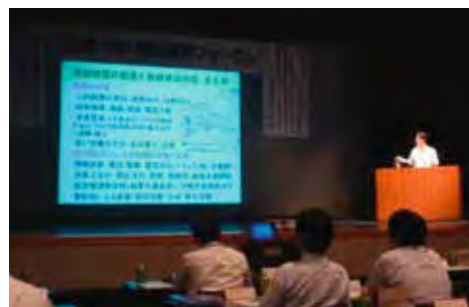
実施日 平成25年7月19日（金）

場 所 男鹿市

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門

教授・地域防災部門長 水田敏彦

参加者数 200名



秋田国家石油備蓄基地が、地元への貢献、青少年への資源・エネルギー教育等を行うことを目的として毎年開催している講演会。秋田県は海底を震源とする地震と活断層による内陸地震の両タイプの地震災害が想定されること、地震は同じ場所で繰り返し発生するため過去の震災経験を学び備えることが大切であることを説明した。1939年に発生した男鹿地震では斜面崩壊により道路や鉄道、電話などのライフラインが寸断される被害が起きたこと、家屋の倒壊や山崩れに巻きこまれる人的被害が多く発生した原因を解説し、住宅の耐震化と地震発生時・発生後の避難行動の重要性を伝えた。

(12)「横手市防災講演会」講演

実施日 平成25年7月24日（水）

場 所 横手市

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 教授・地域防災部門長 水田敏彦

参加者数 130名

横手市職員への防災教育として実施。除雪中の事故が多くなる積雪期に地震が発生した場合どのような被害になるかと問題提起した。また当市と行った豪雪地帯の地震防災に関する協議では高齢化によるコミュニティーの維持、避難場所や避難経路の除雪、積雪時の救援活動の問題等が挙げられたことを説明し、積雪時に災害が発生した際の弱みを把握し、対策を講じる必要があると提言した。

(13)「自主防災組織講演会」講演

実施日 平成25年7月26日（金）

場 所 美郷町

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 准教授 鎌滝孝信

参加者数 70名

美郷町民を対象とした講演会。「これからの地震防災・減災活動 地域防災力の向上を目指して」と題し講

≫人材の育成

演。自分の命は自分で守る「自助」の徹底、そして自主防災組織などにより自分達の町・仲間を守る「共助」の強化について説明し、自分達で考え行動することが重要であることを述べ、より地域住民が積極的に防災訓練へ参加することなどを提言した。

(14)「北秋田地域振興局自主防災組織リーダー」講演

実施期間 平成25年7月31日（水）、平成25年8月2日（金）

場 所 大館市、北秋田市

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門

教授・地域防災部門長 水田敏彦

准教授 鎌滝孝信

参加者数 140名



北秋田地域の自主防災組織リーダー等を対象に、防災に関する基本的な知識を修得、組織の活発な活動の推進を目的とした講演会。鎌滝准教授は大館市において、防災は学校における子ども達への教育の他に、学校と地域住民が連携し活動することも重要であること、行政の判断や救助を待たずに、主体的に行動することが大事であることを説明した。水田准教授は北秋田市において、災害と地域性を正しく知り、その知識を避難行動へつなげることの重要性や、自助・共助・公助の連携が減災につながるることについて説明し、秋田市や能代市の自主防災組織の活動事例などを紹介。そして地域の中でいざ災害が起きた時に行動できる人材を育成するためには、自主防災組織活動の継続と地域住民の協力が必要不可欠であり、自主防災組織の方々には、自ら率先して災害に備え、組織活動を継続して欲しいと述べた。

(15)「経営者モーニングセミナー」講演

実施日 平成25年9月25日（水）

場 所 秋田市

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 地域防災アドバイザー 野越三雄

参加者数 9名

秋田山王倫理法人会会員を対象とした講演。秋田県沿岸域における地震発生と、その場合の被害予測について説明。災害から身を守るためには自助の意識が最も大事であること、そのためには普段から地震・防災について関心を持つことが必要であることを説明した。

(16)「秋田市自主防災組織連絡協議会総会防災講話」講演

実施日 平成25年9月27日（金）

場 所 秋田市

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 教授・地域防災部門長 水田敏彦

参加者数 100名

秋田市の自主防災組織リーダーを対象とした講演。防災とは災害と地域を知り、その知識を生かすことにあると述べ、知識を生かすためには自主防災組織の活動が深く関わってくること、さらに地域住民と連携した防災活動が今後重要になってくることを説明した。過去に秋田県で発生した液状化などの地震被害は、造成前の地形や地盤の性質が大きく関係していることから、地域性を知り災害を想像する力が、防災を考える上で必要になると述べた。

(17) 「雪氷防災研究会講演会」講演

実施日 平成25年10月31日（水）

場 所 横手市

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 教授・地域防災部門長 水田敏彦

参加者数 100名

東北・北陸地方で毎年開催され、講演を通して寒冷地の防災を考えることを目的とした講演会。積雪期に地震が発生した場合には雪崩の発生や積雪により道路が閉塞し救助・救援が出来ず孤立状態になることが考えられると述べ、これらを想定した防災計画の策定が必要であると説明した。さらに、寒冷期の防災訓練、除雪車の連携体制の強化など、積雪寒冷期に地震が発生した場合の複合災害に際する対策について解説した。

(18) 「防災教育推進モデル地域における学校・地域連携事業第2回防災教育研修」講演

実施日 平成25年11月1日（金）

場 所 にかほ市

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 准教授 鎌滝孝信

参加者数 115名

秋田県立仁賀保高校BV会（Benkyo&Volunteer同好会）の会員15名が、にかほ市立象潟中学校3年生約100名を対象に「災害時に私たちができること」と題して防災教室を実施。地震や津波が起きた際の身の守り方や、避難所で自分たちができることなどについて、クイズや実演を交えながら説明した。BV会員と中学生とのフリートークでは、2011年東北太平洋沖地震の被災地でのボランティア体験談や、避難所にいる方々とのコミュニケーションについての意見や質問が交わされた。鎌滝孝信准教授は、説明がわかりやすいよう工夫されていた点を評価し、防災力のある地域を作るために、ここにいる一人一人が防災のリーダーとなって、今日学び高めた防災意識を常に持ち行動して欲しいと講評した。

≫人材の育成

(19)にかほ市主催「秋田県地震被害想定調査の報告を受けて『災害から生き抜く力を育てる』講演会」 講演

実施日 平成25年11月20日（水）

場 所 にかほ市

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 教授・地域防災部門長 水田敏彦

参加者数 50名

にかほ市民を対象とし、秋田県が公表した「秋田県地震被害想定調査報告」を受け当市の防災・減災を市民自らが考えることを目的とした講演会。水田地域防災部門長は委員として参画した地震被害想定調査報告の作成プロセスや、その報告により自治体あるいは地域住民が行うべきことについて説明した。また、津波への対策として海岸堤防等によるハード面の対策では防御に限界があるが、市民が事前に防災・減災対策を講じることで死者数は激減することを述べた。

(20)「地域防災フォーラム」パネリスト

実施日 平成25年11月22日（金）

場 所 秋田市

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 准教授 鎌滝孝信

参加者数 500名

県内の幼保小中高等学校、特別支援学校の防災教育を担当する教員を対象としたフォーラム。大規模災害の発生に備えた防災教育のあり方について研修を実施し、指導体制の充実をはかることを目的とした。鎌滝准教授はパネルディスカッションにおいて、地域創生センターが県内各学校等で実施している防災教育の現状と、地域との連携、今後の防災教育のあり方などについて、今年度船川第一小学校で実施した地域住民が参加した防災授業を例に挙げ、「地域を取りこんでいければ、防災教育がうまく進むだろう」とコメントし、学校だけに留まらない地域を巻き込んだ防災教育の実施について発言した。また、今後の防災教育のあり方については、幼少期からの発達過程に応じた実施と継続、そして災害の記憶を風化させないことが重要と提言した。

(21)「自主防災組織研修」

実施日 平成25年11月27日（水）、12月4日（水）、12月18日（水）、
12月20日（金）、12月25日（水）

平成26年1月15日（水）、1月16日（木）、1月22日（水）、
1月23日（木）、1月28日（火）、1月29日（水）、1
月30日（木）

場 所 上小阿仁村、小坂町、大館市、北秋田市、鹿角市、に
かほ市、能代市、秋田市、仙北市、大仙市、羽後町、三種町



担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 教授・地域防災部門長 水田敏彦
 准教授 鎌滝孝信

参加者数 640名

県内各市町村の町内会長、自主防災組織の長等を対象とした「平成25年度自主防災組織育成指導者研修会（主催：秋田県）」で水田地域防災部門長、鎌滝准教授は「地域と家族を守るための防災・減災活動について」をテーマに地域の特性や課題を踏まえた講演を行った。地震により津波や火災などの2次被害が発生することを普段から想定しておくこと、地域の実情にあわせた避難訓練を実施すること、豪雪地域の市町村においては積雪時の被害が無雪期と比べて大きくなることが予想される等を説明し、地域の特性を知り、住民一人一人が地震に対して主体性を持つことが災害を少なくするために大切であることを説明した。

(22)「十文字保育所講演会」講演

実 施 日 平成25年12月12日（木）

場 所 横手市

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 教授・地域防災部門長 水田敏彦

参加者数 50名

横手市十文字地区にある4つの保育園（所）の保育士を対象とした講演会。防災は災害について普段からどれだけイメージしているかということが重要であることを説明。そして、園児に防災教育を実施することで大人へも効果があること、日頃から地域住民と良い関係を築いていることが重要であると説明し、保育所として考えなくてはいけない防災対策について説明した。また、過去にも横手市周辺で大きな地震が発生していることから、今後の地震発生を想像し日頃から準備して欲しいと注意を促した。

(23)「白百合保育園講演会」講演

実 施 日 平成26年2月22日（土）

場 所 秋田市

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 教授・地域防災部門長 水田敏彦

参加者数 50名

白百合保育園の保護者を対象とした講演会。秋田県で過去に発生した地震と、家庭で考える防災について説明した。

(24)「大仙市商工会防災教育講演会」講演

実 施 日 平成26年3月19日（水）

≫人材の育成

場 所 大仙市

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 教授・地域防災部門長 水田敏彦

参加者数 30名

大仙市周辺で過去に発生した地震災害を教訓とし日頃からの備えについて考えることを目的とした講演会（主催：大仙市商工会・秋田大学産学連携推進機構）。「1914年秋田仙北地震から100年～被害と教訓をふりかえる～」と題し講演。100年前に大仙市周辺で発生した1914年秋田仙北地震について説明し、当時の様子を記す新聞記事や当時撮影された貴重な写真などにより、人的被害やライフラインの被害などについて解説した。

2) 出前講義

(1) 「防災教育外部指導者派遣事業」出前授業

実施校

| | | | |
|--------------|-------|--------------|--------|
| 男鹿市立男鹿南中学校 | 5月31日 | 秋田市立土崎小学校 | 9月3日 |
| 能代市立二ツ井小学校 | 6月13日 | 能代市立第四小学校 | 9月18日 |
| 男鹿市立船川第一小学校 | 6月21日 | 寺内保育所 | 9月19日 |
| にかほ市立上浜小学校 | 6月27日 | 大館市立花岡中学校 | 9月20日 |
| 男鹿市立脇本第一小学校 | 6月28日 | 男鹿市立五里合小学校 | 9月27日 |
| 泉保育所 | 7月2日 | 秋田市立東小学校 | 10月3日 |
| 勢至保育園 | 7月3日 | 十文字保育所 | 10月9日 |
| 北秋田市立鷹巣中央小学校 | 7月4日 | 大仙市立太田南小学校 | 10月29日 |
| にかほ保育園 | 7月11日 | 秋田市立八橋小学校 | 11月14日 |
| 秋田市立土崎中学校 | 7月12日 | 秋田市立秋田商業高等学校 | 12月4日 |
| 湯沢市教育委員会 | 7月30日 | 川口保育所 | 12月11日 |
| 男鹿市立北陽小学校 | 8月27日 | 秋田市立泉中学校 | 12月19日 |
| 秋田市立中通小学校 | 8月28日 | 大仙市立豊岡小学校 | 1月16日 |
| 男鹿市立船川南小学校 | 8月28日 | | |

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 教授・地域防災部門長 水田敏彦
准教授 鎌滝孝信

参加者数 4,321名

秋田県教育庁が主催する事業。県内の幼保小中高等学校において出前授業、防災訓練指導等を実施し、今後災害が発生した場合においても、正しい知識を持ち避難ができる児童・生徒を育てることを目的とした。



(2) 「平成25年度防災教育推進モデル事業地域における学校・地域連携推進事業事前研修会象潟小学校」 防災授業

実施日 平成25年7月9日(火)

場所 にかほ市

担当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 教授・地域防災部門長 水田敏彦

参加者数 550名

8月30日に秋田県が実施する防災訓練の事前研修として開催され、象潟小学校全校児童の他、保護者及び地域住民が参加。津波は一度だけでなく連続して発生する危険があることを述べ、一度目の津波が引けたから海に近づく等の興味本位の行動をとらないよう注意を促した。また、避難時にはブロック塀や電柱の倒壊、土砂災害なども考えて避難することが必要であることを説明し、自分の命は自分で守る意識を持って欲しいこと、保護者や地域住民に対しては、地震の揺れで家具が凶器になることも考えられることから、家具の固定などの防災対策について説明した。

(3) 「船川第一小学校」 防災授業

実施日 平成25年7月18日(木)、8月27日(火)、9月10日(火)

場所 男鹿市

担当 秋田大学地域創生センター地域防災部門

教授・地域防災部門長 水田敏彦

准教授 鎌滝孝信

参加者数 120名



船川第一小学校5年生を対象とした連続(3回)する防災授業。第1回目(7/18)は、男鹿市ジオパーク学習センターを会場に津波発生実験、建物倒壊実験を含めた授業を実施。第2回目(8/27)は、児童達が普段通る登下校の道路や市街地を実際に歩き、災害が発生した際に危なくなるとされる箇所を調査しマップへ記載する「防災マップ」の作成を実施。第3回目(9/10)は、前回作成した防災マップを下級生や地域の方々へ発表することで、地域の危険箇所や防災について提案した。調査した児童からは「危険な場所がたくさんあってびっくりした」「避難所までの道は狭いので車で来たら渋滞を起こしそう」などと感想があり、沿岸部にある小学校であるために潜在する危険箇所について理解を深めた。

(4) 「秋田県沿岸部に位置する小学校等への出前授業」

実施校

| | | | |
|------------|--------|------------|--------|
| 秋田市立日新小学校 | 11月18日 | 秋田県立栗田養護学校 | 12月10日 |
| にかほ市立金浦小学校 | 11月21日 | 潟上市立東湖小学校 | 12月16日 |
| 潟上市立天王小学校 | 11月26日 | | |

≫人材の育成

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門

教授・地域防災部門長 水田敏彦

准教授 鎌滝孝信

参加者数 589名



地域防災部門が平成25年度から開始した、秋田県の沿岸部に位置する小学校、特別支援学校を対象に、津波への理解、津波発生時の避難行動に重点を置いた防災教育プロジェクト。今後、秋田県沿岸部で津波が発生した際、児童一人一人が考え避難行動をとれるようになることを目的とした。本年度は小学校4校（潟上市2校、秋田市1校、にかほ市1校）、特別支援学校1校（秋田市）で実施。

実施校においては、地域防災部門教員による現地調査（標高・沿岸からの距離等）を行い、実施校がある地域の地理的状况を把握。防災授業では津波の発生メカニズムや避難する際の注意点を具体的に解説し、災害発生時には、誰の指示がなくても速やかに避難行動がとれることや、普段から地域の危険箇所を把握しておくことなどについて述べ、沿岸部に位置する小学校であるために気をつけなくてはならないことを児童、生徒たちに指導した。

(5)「秋田中央高等学校」出前授業

実 施 日 平成25年11月28日（木）

場 所 秋田市

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 教授・地域防災部門長 水田敏彦

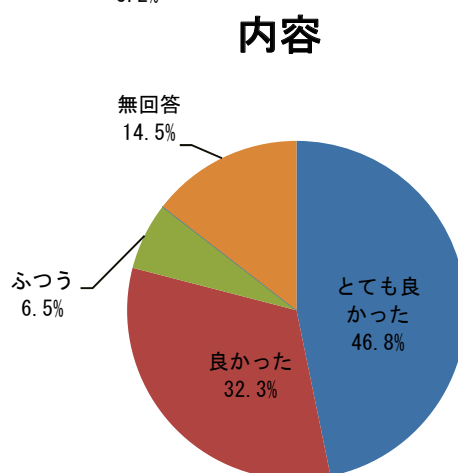
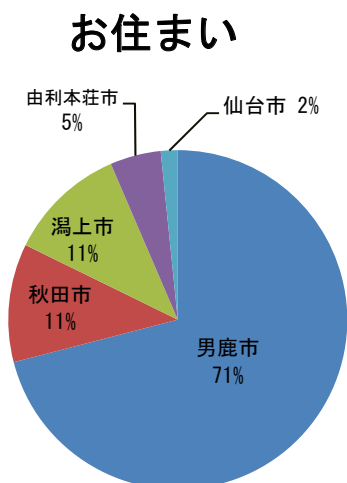
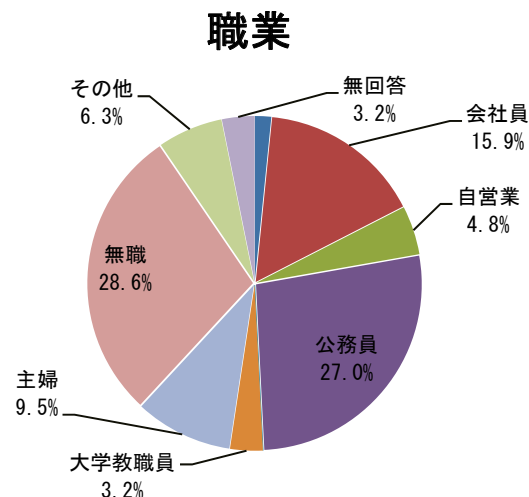
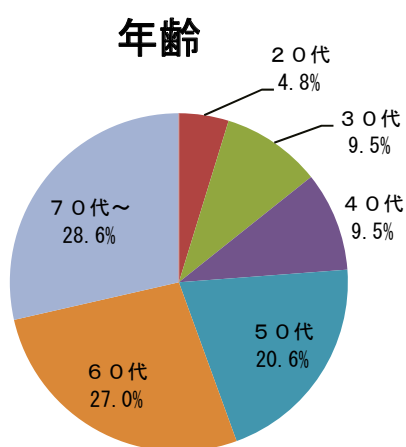
参加者数 710名

秋田県立秋田中央高等学校全校生徒を対象に講演。日本は自然災害の多い国であること、830年天長地震が発生した際は同校周辺でも大きな被害に見舞われたことを説明し、自然災害は決して他人事ではないと注意を促した。そして地震や防災に関する資料や知識を理解し、活用することが地域の防災対策を考える上で役立つことを説明した。また減災への担い手として若者達へ期待することとして、災害の経験を後生に伝えること、人の心を大切にしてみんなで助け合うことなどをあげ、更に日頃の学習が防災・減災の学習にもつながっているとの意識を持って学校の勉強や技能の習得に取り組んで欲しいと伝えた。

日本海中部地震 30 周年シンポジウム

「日本海中部地震の教訓を明日へ伝える—過去から学び、未来へつなげるために—」

アンケート集計結果



訪問者数 129名
 アンケート回答者数 63名
 (回収率48.8%)

■参加者の声

- ・日本海中部地震を経験していないので具体的な被害等は知らなかったが、専門家の先生方が様々な見地から説明してくださったので理解できた。防災教育や自主防の活動は年々普及していると思うが、それらに関わっていないであろう20～30代の人々の防災意識を高める必要があるのではと感じた。
- ・津波に対する見方が変わった。
- ・太平洋側のみではなく、日本海側の津波の犠牲や対策等について具体的に詳しく聞けたと思う。

≫人材の育成

- ・市、県はじめいろいろな機関が、私たちの命を守るために頑張ってくれていることに力強さを感じました。同時に自分の命を自分で守るため、日々防災意識を持ち学習していかなければならないと痛感しました。

■アンケート分析

満足度調査では「とても良かった」「良かった」の回答が80%近くを占めている。また、自由記載においては「自町内会で勉強会を開こうと思った」「改善点に気がついた」などの意見が多かったことから、当シンポジウムの開催目的である「教訓を今後活かす」ためのきっかけになったと考える。一方では「直接的に日本海中部地震を分析して欲しい」「現実の防災にあたっての具体的な活動について説明が欲しい」などの意見もあったことから、さらに詳しい内容が求められているようでもある。今後の開催においては、テーマを絞った構成と防災・減災活動の具体的な取り組みを含めた内容としたい。

2. 3 県及び市町村への防災施策に関する指導・助言

指導助言を行った自治体：9自治体
(秋田県、秋田市、にかほ市、男鹿市、
潟上市、茨城県小美玉市、栃木県日光市、
埼玉県狭山市、青森県むつ市)



●事業内容

秋田県あるいは県内各自治体における委員会等へ委員として参画し、学術的見地からの指導・助言を行った。

●事業成果と課題

秋田県地震被害想定調査委の公表、各自治体における防災会議等においても、学術的見地からの指導・助言を行った。また、消防庁主催の事業において市町村災害対応支援アドバイザーとして参画し、県外自治体へ学術的見地から助言を行った。



実施事業

1) 委員会参画

(1) 秋田県地震被害想定調査委員会

実施期間 平成23年～平成25年6月

所 管 秋田県

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 教授・地域防災部門長 水田敏彦

秋田県の地震被害の想定並びに地震防災対策を推進するために必要な助言および被害想定を検討を行った。

(2) 秋田県地震被害想定調査専門部会

実施期間 平成24年～平成25年6月

所 管 秋田県

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 教授・地域防災部門長 水田敏彦
准教授 鎌滝孝信

秋田県地震被害想定調査委員会に設置されている「同専門部会」において、専門的見地から地震被害想定

調査への技術的な助言を行った。

(3) 秋田県再生可能エネルギー等導入推進臨時対策事業評価委員会

実施期間 通年

所 管 秋田県

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 教授・地域防災部門長 水田敏彦

秋田県の公共施設や地域の防災拠点について、再生可能エネルギー等の導入を推進するために必要な助言及び検討を行った。

(4) 防災教育推進委員会

実施期間 通年

所 管 秋田県

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 教授・地域防災部門長 水田敏彦

学校における防災教育推進事業の方向性や実施内容を確認・検討しより実効性のある防災教育を推進するための検討を行った。委員会委員長として参加。

(5) にかほ市防災計画策定委員会

実施期間 通年

所 管 にかほ市

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 教授・地域防災部門長 水田敏彦
准教授 鎌滝孝信

「にかほ市地域防災計画の見直しに関わる市民会議」において、にかほ市の地域防災に関する意見交換、地域防災計画の骨子案の検討を行った。

(6) 秋田県企画提案競技審査委員会

実施日 平成25年5月

所 管 秋田県

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 教授・地域防災部門長 水田敏彦

秋田県で導入が検討されている「情報集約配信システム」の方向性や内容を確認・検討し、最適な提案者の選定を行った。

(7) 秋田市防災会議委員会

実施期間 平成25年6月～平成26年6月

所 管 秋田市

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 教授・地域防災部門長 水田敏彦

秋田市地域防災計画の作成とその実施・推進するために必要な助言および検討を行った。

(8) 潟上市防災会議委員

実施期間 通年

所 管 潟上市

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 准教授 鎌滝孝信

潟上市の地域防災計画の見直しに関わる防災会議に委員として参画した。

2) 自治体等事業参画

(1) 市町村災害対応支援アドバイザー

実 施 日 平成26年1月28日（火）、2月6日（木）、2月14日（金）、2月19日（水）

所 管 消防庁

場 所 茨城県小美玉市、栃木県日光市、埼玉県狭山市、青森県むつ市

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 教授・地域防災部門長 水田敏彦
准教授 鎌滝孝信

参加者数 259名

消防庁が主催した全国の各市町村職員を対象とした事業。東日本大震災を踏まえ、災害に対する有識者を全国に派遣し、市町村の災害対応力の向上に関する助言、情報提供等を実施し、地域の防災・減災活動を支援することを目的としたもの。各市町村が抱える災害における課題や日頃からの備えについて助言した。

(2) 海フェスタ出展

実 施 日 平成25年7月13日（土）～7月28日（日）

所 管 男鹿市

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 教授・地域防災部門長 水田敏彦
准教授 鎌滝孝信

第10回海フェスタに、地域防災部門が実施している防災教育の周知を目的として参加。パネル展示による説明や実験装置を用いた実験を行った。16日には皇族のお成りに際し上記を含めた地域防災部門の事業を説

➤ 指導・助言

明した。

參考資料

平成25年度事業実施状況一覧

| | 事業名 | 開催時期 | 会場 | 対象者、参加者 | 参加者数 | 担当部局等 | 備考 |
|---|---|---|----------------|-------------|---------------------------------|--------------------|----------------|
| 地域協働部門 | サイロジカル・カフェ(全7回) | 25.6.4(火) ~ 7.19(金) | カレッジプラザ | どなたでも | 124 | 教育文化学部 教育心理学講座 | |
| | 『驚異の鳥々』 —ロンドンオリンピックに学ぶ英国文化—(全3回) | 25.6.14(金) ~ 6.28(金) | カレッジプラザ | どなたでも | 23 | 教育文化学部 欧米文化講座 | |
| | 秋田大発！ 材料の世界の今昔散歩(全7回) | 25.8.2(金) ~ 9.27(金) | 秋田大学 | どなたでも | 16 | 工学資源学研究所 材料工学専攻 | |
| | 総合自殺予防学インテンシブコース(全4回) | 25.10.4(金) ~ 11.1(金) | カレッジプラザ | 行政担当者、保健師 | 20 | 医学系研究科 公衆衛生学講座 | |
| | 腰痛—原因別に見た対策と予防(全4回) | 25.11.7(木) ~ 11.28(木) | カレッジプラザ | どなたでも | 31 | 医学系研究科 保健学専攻 | |
| | 深奥なる雅楽の魅力(全4回) | 25.11.17(日) ~ 12.15(日) | 秋田大学VBL | どなたでも | 48 | 教育文化学部 音楽教育講座 | |
| | 発声法と歌唱法—童謡・唱歌、秋田の歌曲を歌う—(全4回) | 26.3.1(土) ~ 3.30(日) | 秋田大学 | どなたでも | 29 | 教育文化学部 音楽教育講座 | |
| | 横手分校主催 メディカル・サイエンスカフェ・ネクスト 「高齢社会を明るく元気に生きる」 | 25.8.28(水) | 湯沢ロイヤルホテル | どなたでも | 120 | 医学系研究科 教育文化学部 | |
| | いぶりばでい 収穫・漬込作業 | 25.10.26(土) ~ 10.27(日) | 山内三又地区 | 秋田大学生 | | | |
| | 平成25年度 大学生・高校生教職体験プログラム 教育ミニミニ実習 | 25.12.26(木) ~ 27(金) / 26.1.8(水) ~ 10(金) | 横手市立横手南中学校 | 秋田大学生 | | | |
| | 【地域交流事業】 いぶりばでい 樽開け作業 | 26.2.3(日) | 山内三又地区 | 秋田大学生 | | | |
| | 【地域交流事業】 いぶりばでい 製品化作業 | 26.2.16(日) | 山内三又地区 | 秋田大学生 | | | |
| | 【地域交流事業】 雪中運動会 | 26.2.23(日) | 山内三又地区 | 秋田大学生 | | | |
| | 2013スノーキャンドルストリート in あに | 26.2.22(土) | 北秋田市 阿仁庁舎前 | どなたでも | | 北秋田分校、秋田大学生 | |
| | 第51回阿仁の花火大会と灯籠流し | 25.8.16(金) | 北秋田市 | 秋田大学生 | | 秋田大学よさこせ歌舞隊(サークル) | 北秋田分校後援 |
| | 北秋田分校主催 メディカル・サイエンスカフェ・ネクスト 「高齢社会を明るく元気に生きる」 | 25.9.18(水) | 秋田北鷹高等学校 | どなたでも | 150(定員) | 医学系研究科 教育文化学部 | |
| | 【地域交流事業】田んぼアート 稲刈り参加 | 25.9.29(日) | 北秋田市 | 秋田大学生 | | 秋田県北秋田市地域振興局、北秋田分校 | |
| | 北秋田市「おもしろ理科実験教室」 | 25.10.27(日) | 北秋田市立 鷹巣中学校 | 小中学生、保護者 | | 工学資源学研究所 | |
| | 大館市「ワクワク子ども科学教室」 | 25.11.17(日) | 大館市立 有浦小学校 | 小中学生、保護者 | | 工学資源学研究所 | |
| | 第3回「ふるさとの未来・再考！」フォーラム ※分校長参加 | 25.12.8(日) | 北秋田市 交流センター | どなたでも | | 北秋田市教育委員会 北秋田分校 | 北秋田分校共催 |
| | 男鹿なまはげ分校開設記念行事 | 25.9.30(月) | 男鹿市役所 | どなたでも | | 男鹿市役所総務企画課 | |
| | 特別講演会「歴史の転換期をどう生きるか」 | 25.11.18(月) | 男鹿南 中学校 | どなたでも | | 男鹿なまはげ分校 | 男鹿市・男鹿市教育委員会 |
| | 男鹿の未来を創る子ども育成フォーラム2013 | 26.1.8(水) | 男鹿市民 文化会館 | 小中学校教員、地域住民 | | 男鹿なまはげ分校 | 男鹿市・男鹿市教育委員会 |
| | 自治体連携関係 美郷町「水のコンサート」 | 25.10.26(木) | 美郷町立 美郷中学校 | | | 教育文化学部 音楽教育講座 | |
| | 大学訪問 大学訪問受入 | 随時受入 | | | | | 36件受入(H25.3現在) |
| | 地域創生センター主催 秋田大学子ども見学デー | 25.8.7(水) | 秋田大学 | 小・中学生親子 | 244 | 全学 | |
| 秋田大学地域創生センター主催 メディカル・サイエンスカフェ・ネクスト 「高齢社会を明るく元気に生きる」 | 25.10.2(水) | 美郷町中央 ふれあい館 | どなたでも | 120(定員) | 医学系研究科 教育文化学部 工学資源学研究所 | | |
| 平成25年度大学改革シンポジウム「地域力を生かした教員養成システム～”教員養成秋田モデル&横手分校の取り組み～」 | 26.1.10(金) ~ 26.1.11(土) | 横手南中 学校 横手プラザホテル | どなたでも | 50 | 全学 | | |
| 秋大憩いのコンサート(全12回) | 25.4.20(土) ~ 26.3.29(土) | 秋田大学 IC | どなたでも | | 教育文化学部 | | |
| 第1回子どもものづくり教室 ～大型ペーパークラフト作りに挑戦～ | 25.4.21(日) | ものづくり 創造工学 センター | 小・中学生 | | 工学資源学研究所附属 ものづくり創造工学セン ター | | |
| 第2回子どもものづくり教室 ～大型水ロケットを飛ばしてみよう～ | 25.5.26(日) | ものづくり 創造工学 センター | 小・中学生 | | 工学資源学研究所附属 ものづくり創造工学セン ター | | |
| 第3回子どもものづくり教室 ～ものづくりチャレンジシリーズ より速く飛ばせ！投てき装置作りに挑戦～ | 25.6.30(日) | セリオンラ ザ多目的ホ ール | 小・中学生 | | 工学資源学研究所附属 ものづくり創造工学セン ター | | |
| 第4回子どもものづくり教室 ～工具の使い方教室シリーズ 小刀を使って竹トンボを作ろう～ | 25.7.21(日) | 勝平市民 グラウンド | 小・中学生 | | 工学資源学研究所附属 ものづくり創造工学セン ター | | |

平成25年度事業実施状況一覧

| | 事業名 | 開催時期 | 会場 | 対象者、参加者 | 参加者数 | 担当部局等 | 備考 |
|--------|---|-------------------------|-----------------------|---------|------|---------------------------------|----|
| 地域協働部門 | 第5回子どもものづくり教室 ～能代宇宙イベントモデルロケット打上体験と 宇宙開発の本物見学会～ | 25.8.25(日) | 能代市 宇宙広場 | 小・中学生 | | 工学資源学研究所附属 ものづくり創造工学セン ター | |
| | 第6回子どもものづくり教室 ～メッキについて学ぼう～ | 25.9.29(日) | ものづくり 創造工学 センター | 小・中学生 | | 工学資源学研究所附属 ものづくり創造工学セン ター | |
| | 第7回子どもものづくり教室 ～スパゲティタワーを建てよう！～ | 25.10.20(日) | ものづくり 創造工学 センター | 小・中学生 | | 工学資源学研究所附属 ものづくり創造工学セン ター | |
| | 第8回子どもものづくり教室 ～石から絵の具を作ろう！～ | 25.11.17(日) | ものづくり 創造工学 センター | 小・中学生 | | 工学資源学研究所附属 ものづくり創造工学セン ター | |
| | 第9回子どもものづくり教室 ～ふんふんゴマで電気をおこそう！～ | 25.12.15(日) | ものづくり 創造工学 センター | 小・中学生 | | 工学資源学研究所附属 ものづくり創造工学セン ター | |
| | 第10回子どもものづくり教室 ～エコステンドライト～ | 26.1.26(日) | ものづくり 創造工学 センター | 小・中学生 | | 工学資源学研究所附属 ものづくり創造工学セン ター | |
| | 第11回子どもものづくり教室 ～4足歩行ロボット～ | 26.2.23(日) | ものづくり 創造工学 センター | 小・中学生 | | 工学資源学研究所附属 ものづくり創造工学セン ター | |
| | 第12回子どもものづくり教室 ～バスケットでゲーム作りにチャレンジ！～ | 26.3.16(日) | ものづくり 創造工学 センター | 小・中学生 | | 工学資源学研究所附属 ものづくり創造工学セン ター | |
| | 親子環境教室「環境をはかろう。学ぼう。」 | 25.8.7(金) | 工学資源学 部4号館 | 小学生・保護者 | | 工学資源学研究所 環境応用化学科 | |
| | 秋田大学総合技術部第5回テクノフェスタ | 25.11.9(土) | 秋田拠点 センター アルヴェ | どなたでも | | 秋田大学総合技術部 | |
| | NPO法人秋田土壌浄化コンソーシアム主催 子ども科学教室「土を科学しよう」 | 25.12.27(金) | 秋田大学VBL | 小学生・保護者 | | 工学資源学研究所 環境応用化学科 | |
| | 秋田大学発 FUKUSHIMA ころつなくプロジェクト | | | | | 教育文化学部 教科教育学講座 | |
| | 秋田県内3ジオパーク候補地域への認定申請支援活動 | | | | | 教育文化学部 自然環境講座 | |
| | その他 | 秋田県赤十字血液センターによる献血事業への協力 | | | | | |
| | 「秋田大学キャンパスガイドマップ」の作成 | | | | | | |

平成25年度事業実施状況一覧

| 項目 | 事業名 | 開催時期 | 会場 | 対象者・参加者 | 参加人数 | 担当部署等 | 備考 |
|--|--|--|--|---------|--------------|-------------------------|----|
| 地域防災部門 秋田県の特性を考慮した地域防災のあり方に関する調査・研究 | 秋田県および日本海側北部地域における過去の地震・津波痕跡に関する調査 | 通年 | 男鹿市 潟上市 にかほ市 | | | 鎌滝准教授 | |
| | 潟上市における地震・津波防災、減災に関する研究 | 通年 | 潟上市 | | | 鎌滝准教授 | |
| | 高齢化・過疎地域における防災力維持に関する研究 | 通年 | 横手市 潟上市 | | | 水田地域防災部門長 鎌滝准教授 | |
| | 防災教育に関する研究 | 通年 | 県内 | | | 水田地域防災部門長 鎌滝准教授 | |
| | 土砂災害危険時の自治体と住民との減災情報共有技術に関する研究 | 通年 | 県内 | | | 水田地域防災部門長 | |
| | 秋田県沿岸市町村への津波等に関するアンケート調査(続) | 通年 | 八峰町, 能代市, 三種町, 大潟村, 男鹿市, 潟上市, 秋田市, 由利本荘市, にかほ市 | | | 野越地域防災アドバイザー | |
| | 強震計を用いた地震観測記録 | 通年 | 秋田市 (秋田大学) | | | 水田地域防災部門長 | |
| | 緊急地震速報装置設置による精度等研究 | 通年 | 秋田市 (秋田大学) | | | 野越地域防災アドバイザー | |
| | 北海道太平洋沿岸地域調査および避難施設調査 | 25.4.3(水)～25.4.6(土) | 北海道 | | | 鎌滝准教授 | |
| | 潟上市研究打合せ | 25.4.25(木) | 潟上市 | | | 鎌滝准教授 | |
| | 八峰町沿岸における津波痕跡調査 | 25.5.2(木) | 秋田県 | | | 鎌滝准教授 | |
| | 青森県鰯ヶ沢町沿岸における津波痕跡調査 | 25.6.5(水) | 青森県 | | | 鎌滝准教授 | |
| | 土砂災害危険情報リアルタイム評価システムに関する打合せ | 25.6.10(月) | 鹿角市 | | | 水田地域防災部門長 | |
| | 秋田国家石油備蓄基地における長周期地震動特性に関する研究(受託研究) | 25.7～26.2.26(水) | 男鹿市 | | | 水田地域防災部門長 | |
| | にかほ市市民会議参加 | 25.9.26(木) | にかほ市 | | | 鎌滝准教授 | |
| | 八峰町ジオパーク推進協議会研究打合せ | 25.10.23(水) | 八峰町 | | | 水田防災部門長 鎌滝准教授 利圭査 | |
| | 秋田県、青森県沿岸部調査 | 25.11.9(土) | 秋田県 青森県 | | | 鎌滝准教授 | |
| | にかほ市役所研究打合せ | 25.11.15(金) | にかほ市 | | | 鎌滝准教授 | |
| | 美郷町現地調査 | 25.11.16(土) | 美郷町 | | | 鎌滝准教授 | |
| | ボーリングコア試料の解析作業 | 26.1.18(日)～26.1.21(火) 26.2.23(日)～26.2.26(水) | 埼玉県 | | | 鎌滝准教授 | |
| | 住宅の振動調査 | 26.2.24(月) | 横手市 | | | 水田地域防災部門長 | |
| | 【学会・シンポジウム等参加】 2013年日本地球惑星科学連合大会における発表 | 25.5.23(木)～25.5.24(金) | 千葉県 | | | 鎌滝准教授 | |
| | 【学会・シンポジウム等参加】 建築学会における発表 | 25.8.29(木)～25.9.1(日) | 北海道 | | | 水田地域防災部門長 | |
| | 【学会・シンポジウム等参加】 安全教育学会における発表 | 25.9.7(土)～25.9.8(日) | 千葉県 | | | 水田地域防災部門長 | |
| | 【学会・シンポジウム等参加】 第30回歴史地震研究会(秋田大会)講演会における発表 | 25.9.14(土)～25.9.16(月) | 秋田市 (秋田大学) | | | 野越地域防災アドバイザー | |
| | 【学会・シンポジウム等参加】 日本地質学会第120年学術大会における発表 | 25.9.16(月)～25.9.18(水) | 宮城県 | | | 鎌滝准教授 | |
| 【学会・シンポジウム等参加】 自然災害学会における発表 | 25.9.22(日)～25.9.26(木) | 北海道 | | | 水田地域防災部門長 | | |
| 【学会・シンポジウム等参加】 平成25年度東北地域防災科学研究会における発表 | 26.1.7(火)～26.1.8(水) | 秋田市 (秋田大学) | | | 野越地域防災アドバイザー | | |
| 【学会・シンポジウム等参加】 土木学会東北支部技術研究発表会におけるCOC事業研究報告 | 26.3.7(金)～26.3.8(土) | 青森県 | | | 鎌滝准教授 | | |

平成25年度事業実施状況一覧

| 項目 | 事業名 | 開催時期 | 会場 | 対象者・参加者 | 参加人数 | 担当部局等 | 備考 |
|--------------------------|---|---|---|------------------------------|-----------|--------------------|----|
| 地域防災部門 | 【講演会等】 「秋田マルハ会講習会」講演 | 25.4.17(水) | 秋田市 | 秋田マルハ会会員 | 30名 | 鎌滝准教授 | |
| | 【講演会等】 「古城苑町内会防災講演会」講演 | 25.4.21(日) | 秋田市 | 古城苑町内会、および 近隣2町内会会員 | 70名 | 鎌滝准教授 | |
| | 【講演会等】 「由利本荘市鳳山会防災講演会」講演 | 25.5.16(木) | 由利本荘市 | 鳳山会会員 | 120名 | 野越地域防災アドバイザー | |
| | 【講演会等】 「秋田県石油コンビナート等防災管理者研修会」講演 | 25.5.17(金) | 秋田市 | 秋田県石油コンビナート等特別防 災区域協議会構成員 | 30名 | 鎌滝准教授 | |
| | 【講演会等】 「日本海中部地震30周年防災講演会」講演 | 25.5.21(火) | 能代市 | 一般市民・中学生 | 800名 | 水田地域防災部門長 | |
| | 【講演会等】 日本海中部地震30周年シンポジウム「日本海中部地震の教訓 を明日へ伝えるー過去から学び、未来へつなげるためにー」 | 25.5.26(日) | 男鹿市 | 一般市民 | 126名 | 地域創生センター | |
| | 【講演会等】 「ママの防災教室津波・防災」講話 | 25.5.31(金) | 能代市 | 育児中の母親、地域住民 | 10名 | 鎌滝准教授 | |
| | 【講演会等】 「第14回日本赤十字看護学会学術集会」講演 | 25.6.22(土) | 秋田市 | 日本赤十字看護学会学術集会参 加者 | 50名 | 野越地域防災アドバイザー | |
| | 【講演会等】 「境田町内会防災講演会」講演 | 25.6.23(日) | 秋田市 | 境田町内会会員 | 30名 | 野越地域防災アドバイザー | |
| | 【講演会等】 「秋田県自主防災アドバイザー-防災講演会」講演 | 25.6.25(火) | 秋田市 | 自主防災アドバイザー | 10名 | 鎌滝准教授 | |
| | 【講演会等】 「秋田石油備蓄株式会社フォーラム」講演 | 25.7.19(金) | 男鹿市 | 秋田石油備蓄(株)関係企業、男 鹿市民 | 200名 | 水田地域防災部門長 | |
| | 【講演会等】 「横手市防災講演会」講演 | 25.7.24(水) | 横手市 | 横手市職員 | 130名 | 水田地域防災部門長 | |
| | 【講演会等】 「自主防災組織講演会」講演 | 25.7.26(金) | 美郷町 | 美郷町民 | 70名 | 鎌滝准教授 | |
| | 【講演会等】 「北秋田地域振興局自主防災組織リーダー研修」講演 | 25.7.31(水)、25.8.2(金) | 大館市 (7月31日) 北秋田市 (8月2日) | 北秋田地域自主防災組織リー ダー等 | 140名 | 鎌滝准教授 水田地域防災部門長 | |
| | 【講演会等】 「経営者モーニングセミナー」講演 | 25.9.25(水) | 秋田市 | 秋田山王倫理法人会会員 | 9名 | 野越地域防災アドバイザー | |
| | 【講演会等】 「秋田市自主防災組織連絡協議会総会防災講話」講演 | 25.9.27(金) | 秋田市 | 秋田市内自主防災組織リー ダー | 100名 | 水田地域防災部門長 | |
| | 【講演会等】 「雷水防災研究会講演会」講演 | 25.10.31(水) | 横手市 | 行政機関、民間事業者、一般市民 | 100名 | 水田地域防災部門長 | |
| | 【講演会等】 「防災教育推進モデル地域における学校・地域連携事業第2回 防災教育研修」講演 | 25.11.1(金) | にかほ市 | 象潟中学校全校生徒、仁賀保高 校BV会 | 115名 | 鎌滝准教授 | |
| | 【講演会等】 にかほ市主催「秋田県地震被害想定調査の報告を受けて『災害 から生き抜く力を育てる』講演会」講演 | 25.11.20(水) | にかほ市 | にかほ市民 | 50名 | 水田地域防災部門長 | |
| | 【講演会等】 「地域防災フォーラム」パネリスト | 25.11.22(金) | 秋田市 | 県内幼・保・小・中・高・特別支援 学校の教職員 | 500名 | 鎌滝准教授 | |
| | 【講演会等】 自主防災組織研修 (上小阿仁村、小坂町、大館市、北秋田市、鹿角市、にかほ市、 能代市、羽後町、秋田市、仙北市、大仙市、三種町) | 25.11.27(水)、12.4(水)、 12.18(水)、12.20(金)、 12.25(水)、26.1.15(水)、 1.16(木)、1.22(水)、 1.23(木)、1.28(火)、 1.29(水)、1.30(木) | 上小阿仁村、小坂 町、大館市、北秋田 市、鹿角市、にかほ 市、能代市、秋田 市、仙北市、大仙 市、羽後町、三種町 | 各市町村の町内会長、自主防災 組織の長等 | 640名 | 水田地域防災部門長 鎌滝准教授 | |
| | 【講演会等】 「十文字保育所講演会」講演 | 25.12.12(木) | 横手市 | 十文字地区の保育園(所)職員 | 50名 | 水田地域防災部門長 | |
| | 【講演会等】 「百合保育園講演会」講演 | 26.2.22(土) | 秋田市 | 百合保育園保護者 | 50名 | 水田地域防災部門長 | |
| | 【講演会等】 「大仙市商工会防災教育講演会」講演 | 26.3.19(水) | 大仙市 | 大仙市商工会会員 | 30名 | 水田地域防災部門長 | |
| | 【出前授業】 「防災教育外部指導者派遣事業」出前授業 | 通年 | 県内 | 県内幼・保・小・中・高等学校 | 4,321名 | 水田地域防災部門長 鎌滝准教授 | |
| | 【出前授業】 「平成25年度防災教育推進モデル事業地域における学校・地域 連携推進事業事前研修会象潟小学校」防災授業 | 25.7.9(火) | にかほ市 | 象潟小学校全校児童、保護者、 地域住民 | 550名 | 水田地域防災部門長 | |
| | 【出前授業】 「船川第一小学校」防災授業 | 25.7.18(木)、8.27(火)、 9.10(火) | 男鹿市 | 船川第一小学校5年生 | 120名 | 水田地域防災部門長 鎌滝准教授 | |
| | 【出前授業】 「秋田県沿岸部に位置する小学校等への出前授業」 | 25.11.18(月)、11.21(木)、 11.26(火)、12.10(火)、 12.16(月) | 日新小、金浦小、天 王小、栗田養護学 校、東湖小 | 各校の児童・生徒 | 589名 | 水田地域防災部門長 鎌滝准教授 | |
| 【出前授業】 「秋田中央高等学校」出前授業 | 25.11.28(木) | 秋田中央高等学校 | 秋田中央高等学校全校生徒 | 710名 | 水田地域防災部門長 | | |

平成25年度事業実施状況一覧

| 項目 | 事業名 | 開催時期 | 会場 | 対象者、参加者 | 参加人数 | 担当部局等 | 備考 |
|--------|---|---|--|---------|------|--------------------|----|
| 地域防災部門 | 【委員会参画】 秋田県地震被害想定調査委員会委員 | (平成23年)～25.6 | 秋田県 | | | 水田地域防災部門長 | |
| | 【委員会参画】 秋田県再生可能エネルギー等導入推進臨時対策事業評価委員会委員 | (平成23年)～通年 | 秋田県 | | | 水田地域防災部門長 | |
| | 【委員会参画】 秋田県地震被害想定調査専門部会委員 | (平成24年)～25.6 | 秋田県 | | | 水田地域防災部門長 鎌滝准教授 | |
| | 【委員会参画】 防災教育推進委員会委員長 | (平成24年)～通年 | 秋田県 | | | 水田地域防災部門長 | |
| | 【委員会参画】 にかほ市防災計画策定委員会委員 | 通年 | にかほ市 | | | 水田地域防災部門長 鎌滝准教授 | |
| | 【委員会参画】 秋田県企画提案競技審査委員会委員 | 25.5 | 秋田県 | | | 水田地域防災部門長 | |
| | 【委員会参画】 秋田市防災会議委員 | 25.6～26.6 | 秋田市 | | | 水田地域防災部門長 | |
| | 【自治体等事業参画】 市町村災害対応支援アドバイザー(消防庁) | 26.1.28(火), 2.6(木), 2.14(金), 2.19(水) | 茨城県小美玉市, 栃木県日光市, 埼玉県狭山市, 青森県むつ市 | 各市町村職員 | 259名 | 水田地域防災部門長 鎌滝准教授 | |
| | 【委員会参画】 潟上市防災会議委員 | 通年 | 潟上市 | | | 鎌滝准教授 | |
| | 【自治体等事業参画】 海フェスタ出展 | 25.7.13(土)～25.7.28(日) | 男鹿市 | 一般市民 | | 水田地域防災部門長 鎌滝准教授 | |

【平成25年度 地域創生センター運営委員】

| 番号 | 職名 | 氏名 | 任期 | 備考 |
|----|------|---|----------------------------------|----|
| 1 | 委員長 | 副学長 (生涯高等教育担当) 地域創生センター長 石尾 俊二 | 規程第3条第1号, 2号 在任期間(平成26年3月31日) | |
| 2 | 運営委員 | 教育文化学部 教授 篠原 秀一 | 規程第3条第3号 平成25年4月1日～平成27年3月31日 | |
| 3 | | 医学系研究科 教授 河谷 正仁 | 規程第3条第3号 平成25年4月1日～平成27年3月31日 | |
| 4 | | 工学資源学研究科 教授 神谷 修 | 規程第3条第3号 平成25年4月1日～平成27年3月31日 | |
| 5 | | 横手分校長 根岸 均 | 規程第3条第4号 平成25年4月1日～平成27年3月31日 | |
| 6 | | 地域創生センター 専任教員 北秋田分校長 濱田 純 | 規程第3条第5号 平成25年4月1日～平成27年3月31日 | |
| 7 | | 地域創生センター 専任教員 水田 敏彦 | 規程第3条第5号 平成25年4月1日～平成27年3月31日 | |
| 8 | | 地域創生センター 寄附講座教員 鎌滝 孝信 | 規程第3条第5号 平成25年4月1日～平成27年3月31日 | |
| 9 | | 学長補佐(地域創生担当) 鈴木 雅史 | 規程第3条第5号 平成24年6月1日～平成26年3月31日 | |
| 10 | | 学長補佐(地域再生担当) 阿部 昇 | 規程第3条第5号 平成25年4月1日～平成26年3月31日 | |

【地域創生課】

| 職名 | 氏名 | 備考 |
|------------|--------|------------|
| 地域創生課長 | 今野 悟 | |
| 地域協働部門総括主査 | 澁谷 隆男 | |
| 地域協働部門総括主査 | 藤澤 裕子 | H25.9.30退職 |
| 地域防災部門主査 | 利 勝利 | |
| 地域協働部門主査 | 村雲 伸一 | |
| 地域協働部門 | 本多 壮一郎 | |
| 地域協働部門 | 高橋 法人 | H25.10.1採用 |
| 地域協働部門 | 内田 佳菜 | |
| 地域協働部門 | 能美 徹 | |
| 地域防災部門 | 板波 ひとみ | |

【地域創生センター(COC事務局)】

| 職名 | 氏名 | 備考 |
|---------------|--------|------------|
| チーフ地域コーディネーター | 田口 公夫 | H25.10.1採用 |
| 地域コーディネーター | 藤井 孝志 | H25.10.1採用 |
| 事務系補佐員 | 富山 希美 | H25.10.1採用 |
| 事務系補佐員 | 鈴木 ルミ子 | H25.10.1採用 |

社会貢献事業で御協力いただいた学内教職員の方々

| 所属等 | | 氏名 |
|--------------------------|-------------------|--------|
| 教育文化学部教科教育学講座 | 教授 | 川村教一 |
| 教育文化学部教科教育学講座 | 准教授 | 石橋研一 |
| 教育文化学部教科教育学講座 | 准教授 | 若有保彦 |
| 教育文化学部音楽教育講座 | 准教授 | 齋藤洋 |
| 教育文化学部音楽教育講座 | 准教授 | 武内恵美子 |
| 教育文化学部発達教育講座 | 教授 | 神居隆 |
| 教育文化学部発達教育講座 | 准教授 | 原義彦 |
| 教育文化学部音楽教育講座 | 准教授 | 爲我井壽一 |
| 教育文化学部教育心理学講座 | 教授 | 高田知恵子 |
| 教育文化学部教育心理学講座 | 教授 | 森和彦 |
| 教育文化学部教育心理学講座 | 准教授 | 中野良樹 |
| 教育文化学部教育心理学講座 | 講師 | 清水貴裕 |
| 教育文化学部政策科学講座 | 准教授 | 石沢真貴 |
| 秋田大学教育文化学部生活者科学講座 | 准教授 | 池本敦 |
| 秋田大学教育文化学部日本・アジア文化講座 | 教授 | 大橋純一 |
| 教育文化学部欧米文化講座 | 准教授 | 大西洋一 |
| 教育文化学部国際コミュニケーション講座 | 教授 | 三宅良美 |
| 教育文化学部自然環境講座 | 教授 | 岩田吉弘 |
| 教育文化学部自然環境講座 | 教授 | 林信太郎 |
| 教育文化学部自然環境講座 | 准教授 | 石井照久 |
| 教育文化学部環境情報講座 | 教授 | 上田晴彦 |
| 教育文化学部環境情報講座 | 准教授 | 高樋さち子 |
| 教育文化学部附属教育実践研究支援センター | 教授 | 柴田健 |
| 教育文化学部附属教育実践研究支援センター | 准教授 | 北島正人 |
| 教育文化学部附属教育実践研究支援センター | 准教授 | 宮野素子 |
| 教育文化学部技術部基礎技術系 | 総括技術長 | 成田堅悦 |
| 教育文化学部技術部基礎技術系 | 技術長 | 毛利春治 |
| 教育文化学部技術部基礎技術系 | 技術職員 | 山下清次 |
| 医学系研究科長・医学部長 | 教授 | 澤田賢一 |
| 医学系研究科医学専攻分子機能学・代謝機能学講座 | 教授 | 杉山俊博 |
| 医学系研究科医学専攻産婦人科学講座 | 教授 | 寺田幸弘 |
| 秋田大学理事／医学系研究科医学専攻公衆衛生学講座 | 理事(教育・学生・入試担当)・教授 | 本橋豊 |
| 医学系研究科医学専攻公衆衛生学講座 | 助教 | 藤田幸司 |
| 医学系研究科保健学専攻基礎看護学講座 | 准教授 | 佐々木久長 |
| 医学系研究科保健学専攻臨床看護学講座 | 助教 | 真壁幸子 |
| 医学系研究科保健学専攻地域・老年看護学講座 | 教授 | 中村順子 |
| 医学系研究科保健学専攻理学療法学講座 | 教授 | 塩谷隆信 |
| 医学系研究科保健学専攻理学療法学講座 | 教授 | 岡田恭司 |
| 医学系研究科保健学専攻理学療法学講座 | 教授 | 工藤俊輔 |
| 医学系研究科保健学専攻理学療法学講座 | 教授 | 進藤伸一 |
| 医学系研究科保健学専攻理学療法学講座 | 准教授 | 佐々木誠 |
| 医学系研究科保健学専攻理学療法学講座 | 准教授 | 佐竹将彦 |
| 医学系研究科保健学専攻作業療法学講座 | 准教授 | 金城正治 |
| 医学系研究科保健学専攻理学療法学講座 | 助教 | 上村佐知子 |
| 医学系研究科保健学専攻理学療法学講座 | 助教 | 若狭正彦 |
| 医学系研究科保健学専攻理学療法学講座 | 助教 | 齊藤明 |
| 医学部附属病院看護部 | 看護部長 | 高島幹子 |
| 医学部附属病院看護部 | 副看護部長 | 大塚悦子 |
| 医学部附属病院看護部 | 看護師長 | 佐々木京子 |
| 医学部附属病院看護部 | 看護師長 | 佐々木由美子 |
| 医学部附属病院看護部 | 副看護師長 | 中村美央 |
| 工学資源学研究科地球資源学専攻 | 教授 | 西谷忠師 |
| 工学資源学研究科地球資源学専攻 | 助教 | 坂中伸也 |
| 工学資源学研究科地球資源学専攻 | 教授 | 藤井光 |
| 工学資源学研究科地球資源学専攻 | 助教 | 綱田和宏 |
| 工学資源学研究科環境応用化学専攻 | 准教授 | 加藤純雄 |
| 工学資源学研究科環境応用化学専攻 | 助教 | 小笠原正剛 |
| 工学資源学研究科環境応用化学専攻 | 助教 | 松本和也 |
| 工学資源学研究科環境応用化学専攻 | 助教 | 山下剛司 |

| 所属等 | | 氏名 |
|-------------------------|------------------|-------|
| 工学資源学研究科環境応用化学専攻 | 教授 | 菅原勝康 |
| 工学資源学研究科環境応用化学専攻 | 教授 | 後藤猛 |
| 工学資源学研究科環境応用化学専攻 | 准教授 | 高橋博 |
| 工学資源学研究科環境応用化学専攻 | 助教 | 横田早紀 |
| 工学資源学研究科環境応用化学専攻 | 助教 | 芳賀一寿 |
| 工学資源学研究科生命学科専攻 | 教授 | 久保田広志 |
| 工学資源学研究科生命学科専攻 | 教授 | 伊藤英晃 |
| 工学資源学研究科生命学科専攻 | 助教 | 藤原一彦 |
| 工学資源学研究科材料工学専攻 | 教授 | 小玉展宏 |
| 工学資源学研究科材料工学専攻 | 教授 | 齋藤嘉一 |
| 工学資源学研究科材料工学専攻 | 教授 | 石尾俊二 |
| 工学資源学研究科材料工学専攻 | 教授 | 原基 |
| 工学資源学研究科材料工学専攻 | 教授 | 田口正美 |
| 工学資源学研究科材料工学専攻 | 教授 | 大笹憲一 |
| 工学資源学研究科材料工学専攻 | 教授 | 麻生節夫 |
| 工学資源学研究科材料工学専攻 | 講師 | 棗千修 |
| 工学資源学研究科情報工学専攻 | 教授 | 水戸部一孝 |
| 工学資源学研究科情報工学専攻 | 助教 | 藤原克哉 |
| 工学資源学研究科情報工学専攻 | 教授 | 山村明弘 |
| 工学資源学研究科情報工学専攻 | 准教授 | 小林真人 |
| 工学資源学研究科機械工学専攻 | 教授 | 村岡幹夫 |
| 工学資源学研究科機械工学専攻 | 教授 | 長縄明大 |
| 工学資源学研究科機械工学専攻 | 准教授 | 菅原佳城 |
| 工学資源学研究科電気電子工学専攻 | 准教授 | 山口留美子 |
| 工学資源学研究科電気電子工学専攻 | 講師 | 河村希典 |
| 工学資源学研究科土木環境工学専攻 | 准教授 | 荻野俊寛 |
| 工学資源学研究科ライフサイクルデザイン工学専攻 | 理事(研究・産学連携・情報担当) | 玉本英夫 |
| 工学資源学研究科ライフサイクルデザイン工学専攻 | 准教授 | 山口邦彦 |
| 工学資源学研究科附属環境資源学研究センター | 准教授 | 菅原透 |
| 工学資源学研究科附属ものづくり創造工学センター | センター長・教授 | 神谷修 |
| 工学資源学研究科附属ものづくり創造工学センター | 講師 | 和田豊 |
| 工学資源学研究科附属ものづくり創造工学センター | 技術系補佐員 | 齊藤亜由子 |
| 工学資源学研究科技術部 | 副総括技術部 | 三浦敏秋 |
| 工学資源学研究科技術部 | 技術長 | 河原谷浩 |
| 工学資源学研究科技術部 | 技術専門員 | 千田恵吾 |
| 工学資源学研究科技術部 | 技術職員 | 加賀谷史 |
| 工学資源学研究科技術部 | 技術職員 | 佐藤祐美 |
| 工学資源学研究科技術部 | 技術職員 | 佐藤菜花 |
| 工学資源学研究科技術部 | 技術専門員 | 永作清 |
| 工学資源学研究科技術部 | 技術専門員 | 石川広美 |
| 工学資源学研究科技術部 | 技術専門職員 | 田村オリ工 |
| 工学資源学研究科技術部 | 技術職員 | 関啓亮 |
| 工学資源学研究科技術部 | 技術専門員 | 鈴木浩巳 |
| 工学資源学研究科技術部 | 技術長 | 猿田眞司 |
| 工学資源学研究科技術部 | 技術職員 | 小松和三 |
| 工学資源学研究科技術部 | 技術職員 | 加藤隆一 |
| 工学資源学研究科鉱業博物館 | 講師 | 西川治 |
| 工学資源学研究科事務部博物館担当 | 主査 | 中村勝 |
| 図書館・情報推進課 | 総括主査 | 高橋寛 |
| 図書館・情報推進課 | 総括主査 | 飯沼邦恵 |
| 図書館・情報推進課 | 事務職員 | 杉山禎広 |
| 総合情報処理センター | センター長 | 今野和彦 |
| 総合情報処理センター | 准教授 | 吉崎弘一 |
| 総合情報処理センター | 技術職員 | 鷲谷貴洋 |
| 総合情報処理センター | 技術系補佐員 | 大友幹子 |
| ベンチャーインキュベーションセンター | 准教授 | 丹野剛紀 |
| ベンチャーインキュベーションセンター | 技術専門職員 | 安達恵美 |
| 教育推進総合センター | 准教授 | 細川和仁 |

平成25年度社会貢献事業ポスター（一部）

平成25年度 秋田大学公開講座

サイコロジカル・カフェ

心理学系教員7名が各回の案内人となり、オムニバス形式で最近の心理学の知見、研究、実験や技法について実演や実習を交えて紹介します。心の不思議や心の健康について、カフェで気軽にしゃべりする感覚で楽しく学びましょう。

- 1 6月4日(火)カフェ・コラーージュ
定員20名 講師 教育心理学講座 高田 知恵子 教授
- 2 6月11日(火)夢分析入門
定員20名 講師 教育実践講座 宮野 素子 准教授
- 3 6月19日(水)明るい未来の作り方
定員25名 講師 教育実践講座 柴田 健 教授
- 4 6月27日(木)イリュージョン・カフェ
定員16名 講師 教育心理学講座 森 和彦 教授
- 5 7月4日(木)形にしてみよう!心のバランス
定員25名 講師 教育実践講座 北島 正人 准教授
- 6 7月12日(金)Café Mind & Brain
定員25名 講師 教育心理学講座 中野 良樹 准教授
- 7 7月19日(金)脱力・カフェ〜催眠の不思議〜
定員20名 講師 教育心理学講座 清水 貴裕 講師

各回ごとにお申込みが必要です。お好きな回に参加できます。

時間：18:30～20:00
会場：カレッジプラザ (秋田市中通2丁目1-51)
受講料：1回500円

当日はお飲み物を用意してお待ちしております。

申込締切 6月3日(月)

※当講座では、個人的なお悩みやご相談には対応していませんのでご了承の上、お申し込みください。

秋田大学 地域創生課 TEL: 018-889-2270 FAX: 018-889-3162
E-mail: shakoken@jimu.akita-u.ac.jp 秋田大学HP: http://www.akita-u.ac.jp

平成25年度秋田大学公開講座

『驚異の島々』

—ロンドンオリンピックに学ぶ英国文化—

2012年夏に開催されたロンドンオリンピックは、競技自体は盛り上がりましたが、英国を代表する映画監督ダニー・ボイルの演出による開会式で、英国の歴史と文化の豊かさを世界中の人々に印象づけました。本講座では、オリンピック開会式のすばらしいパフォーマンスを振り返り、そこに描かれた英国像を深く探っていきます。

第1回 6月14日(金) 「蘇なす快き地、英国」
日時 平成25年6月14日(金) 18:30～20:00
会場 カレッジプラザ (秋田市中通2丁目1-51)
受講料 1,500円(全3回参加)
※全回出席が原則ですが、あらかじめ欠席の予定がある場合は、お申し込みの際にお知らせください。

第2回 6月21日(金) 「革命を支えた英国の人々」
日時 平成25年6月21日(金) 18:30～20:00
会場 カレッジプラザ (秋田市中通2丁目1-51)
受講料 1,500円(全3回参加)
※全回出席が原則ですが、あらかじめ欠席の予定がある場合は、お申し込みの際にお知らせください。

第3回 6月28日(金) 「消えることなき英国文化の光」
日時 平成25年6月28日(金) 18:30～20:00
会場 カレッジプラザ (秋田市中通2丁目1-51)
受講料 1,500円(全3回参加)
※全回出席が原則ですが、あらかじめ欠席の予定がある場合は、お申し込みの際にお知らせください。

申込締切日・定員 6月13日(木)まで 定員30名(要申込)
電話・FAX・E-mailでお申し込みください。なお、定員に達し次第、締切とします。

講師 教育文化学部欧米文化講座 准教授 大西 洋一

お申込み・お問い合わせ 秋田大学 地域創生課 TEL: 018-889-2270 FAX: 018-889-3162
E-mail: shakoken@jimu.akita-u.ac.jp 秋田大学HP: http://www.akita-u.ac.jp

平成25年度秋田大学公開講座

秋田大発! 材料の世界の今昔散歩

エネルギー供給や環境安全が全世界的な問題として取り上げられるようになった今日、人間が安全で快適に生活していくために役立つ新しい機能を持った材料を創製することは材料工学に課せられた重要なテーマです。本講座では、7名の材料工学研究者が古い時代から今日に至るまでの材料開発への取り組みについてわかりやすく説明します。

- 第1回 金属の素顔の探求～電子顕微鏡で見た材料のミクロの世界～
8月2日(金) 秋田大学大学院工学資源学研究所材料工学専攻 齋藤 嘉一 教授
- 第2回 蛍光灯の今とこれから～ディスプレイ・照明から太陽電池、医療への新たな展開～
8月9日(金) 秋田大学大学院工学資源学研究所材料工学専攻 小玉 展宏 教授
- 第3回 高効率発電システムを実現する材料開発～最前線～
8月30日(金) 秋田大学大学院工学資源学研究所材料工学専攻 原 基 教授
- 第4回 燃料電池の化学～エネルギー変換と材料～
9月6日(金) 秋田大学大学院工学資源学研究所材料工学専攻 田口 正美 教授
- 第5回 材料から見る鉄橋の今昔～炭素なくしては語れない鉄器文明～
9月13日(金) 秋田大学大学院工学資源学研究所材料工学専攻 麻生 節夫 教授
- 第6回 変身する金属～日本刀から形状記憶合金まで金属の変身の世界～
9月20日(金) 秋田大学大学院工学資源学研究所材料工学専攻 大笹 憲一 教授
- 第7回 磁石おもちゃから高性能磁気デバイスへ
9月27日(金) 秋田大学大学院工学資源学研究所材料工学専攻 石尾 俊二 教授

時間：18:30～20:00
会場：秋田大学工学資源学部3号館319室
受講料：3,500円(全7回参加)
定員：30名 申込締切日：8月1日(木)

お申込み・お問い合わせ 秋田大学 地域創生課 TEL: 018-889-2270 FAX: 018-889-3162
E-mail: shakoken@jimu.akita-u.ac.jp 秋田大学HP: http://www.akita-u.ac.jp

平成25年度秋田大学公開講座

総合自殺予防学インテンシブコース

地域における自殺対策の科学的エビデンスと展望

秋田大学では平成19年度より、地域等で自殺対策に関わる専門家を対象に本講座を開催してきました。今年度は「地域における自殺対策の科学的エビデンスと展望」をテーマに、数々の調査・研究から得られたデータをもとに、自殺予防の今後を考えます。※本講座は、地域自殺対策協議会から奨励金を(秋田県)に提供されます。金沢：秋田大学秋田学術研究センター公衆衛生学講座

対象 保健師、行政担当者、メンタルヘルスサポーター等
定員30名 ※要申込 申込締切：平成25年10月3日(木)
(以降要課せられた方も申し込みいただけます。)

日時 平成25年10月4日、10月11日、10月18日、11月1日
15:00～17:00 毎週金曜日全4回

会場 カレッジプラザ (秋田市中通2丁目1-51 明徳館ビル2F)

受講料 2,000円

講師

第1回 「地域づくりを通じた自殺対策と被災地の復興支援」
10/4(金) 秋田大学大学院医学系研究科 准教授 佐々木久長
保健学専攻基礎看護学講座
岩手県金石市保健福祉部 係長 水野由香里 主任保健師 臼澤まき子
健康推進課

第2回 「苦しくともじっと耐える人は地域とのつながりが弱い? —大分県の住民調査から—」
10/11(金) 大分県立看護科学大学看護学部 教授 影山隆之

第3回 「秋田県における疫学調査研究と地域の自殺対策」
10/18(金) 秋田大学大学院医学系研究科 助教 藤田幸司
医学専攻公衆衛生学講座

第4回 「戦略的研究成果に基づく地域自殺対策の展望」
11/1(金) 国立精神・神経研究センター
認知行動療法センター所長 大野裕

お申込み・お問い合わせ 秋田大学 地域創生課 TEL: 018-889-2270 FAX: 018-889-3162
E-mail: shakoken@jimu.akita-u.ac.jp 秋田大学HP: http://www.akita-u.ac.jp

平成25年度社会貢献事業ポスター（一部）

平成二十五年度秋田大学公開講座

腰痛

—原因別に見た対策と予防—

第1回 11月7日(木)
なぜ腰は痛くなるのか？
秋田大学医学系研究科保健学専攻 理学療法学講座
岡田 恭司 教授

第2回 11月14日(木)
職業性腰痛とボディメカニクスによる腰痛予防
秋田大学医学系研究科保健学専攻 臨床看護学講座
眞壁 幸子 助教

第3回 11月21日(木)
腰痛に対する運動療法—コアスタビリティって何だ？—
秋田大学医学系研究科保健学専攻 理学療法学講座
齊藤 明 助教

第4回 11月28日(木)
作業姿勢・動作と心理的な面からの対処と工夫
秋田大学医学系研究科保健学専攻 作業療法学講座
金城 正治 准教授

時 間：18:30～20:00 毎週木曜日
会 場：カレッジプラザ（秋田市中通二丁目1-51）
受講料：2,000円（全4回参加）
定 員：30名（要申込）
申込締切日：11月6日（水）



腰痛のために多くの患者さんが病院を受診されています。しかし一口に腰痛と言っても、その原因は多岐にわたることが知られています。よって腰痛の予防と対策は、それぞれの原因に即したものでなければなりません。本講座では、腰痛の原因を知ることから始め、職業性腰痛の対策、運動療法の実際、日常生活動作や心理面から見た腰痛対策の順で講義と実習を行います。ご自身の腰痛を正しく理解し、日常生活や職業活動の中で行える対策や予防策を習得してください。

※当講座では、個人的なお悩みやご相談には対応しておりません。ご了承の上、お申込みください。

秋田大学 地域創生課 TEL: 018-889-2270 FAX: 018-889-3162
E-mail: shakoken@jimu.akita-u.ac.jp 秋田大学HP: http://www.akita-u.ac.jp

平成二十五年度秋田大学公開講座

深奥なる雅楽の魅力

第一回 十一月十七日(日)
雅楽の概要
講師 秋田大学教育文化学部音楽教育講座
武内 恵美子 准教授

第二回 十一月二十四日(日)
舞楽の魅力

第三回 十二月一日(日)
源氏物語の音の世界

第四回 十二月十五日(日)
雅楽における教養と思想

時 間 十四:00～16:10
(途中一〇分休憩含)

会 場 秋田大学VBL
二階大セミナー室

定 員 五〇名 ※要申込

受講料 二〇〇〇円

秋田大学 地域創生課 TEL: 018-889-2270 FAX: 018-889-3162
E-mail: shakoken@jimu.akita-u.ac.jp 秋田大学HP: http://www.akita-u.ac.jp

雅楽は平安時代から伝承されてきた貴重な音楽文化です。能や歌舞伎と並ぶ日本を代表する伝統音楽ですが、音役はあまり耳にする機会が多くないかもしれません。奥深い雅楽の魅力を感じていただく機会として、本講座を開講します。

平成25年度秋田大学公開講座

発声法と歌唱法

—童謡・唱歌、秋田の歌曲を歌う—

声の出し方、歌詞の解釈、歌の表現、メンタル面等を課題として取り上げながら、童謡・唱歌、秋田の歌曲について、音楽教育講座の学生も交えて地域の人々と交流しながら楽しく学習します。

第1回 3月 1日(土) 基礎的な声の出し方
第2回 3月 2日(日) 言葉と音の結びつき
第3回 3月15日(土) 歌唱表現について
第4回 3月30日(日) まとめと発表

講 師 秋田大学教育文化学部音楽教育講座
准教授 為我井 壽一

伴 奏 堀谷 睦美(第4回)

時 間：10:00～12:00
定 員：20名 要申込
会 場：秋田大学 教育文化学部2号館
演奏ホール (2-140)

受講料：2,000円(全4回参加)
※全回出席が原則ですが、あらかじめ欠席の予定がある場合は、お申し込みの際にお知らせください。

申込締切：2月28日(金)
※定員になり次第、締切いたします。

お申込み・お問い合わせ
秋田大学 地域創生課 TEL: 018-889-2270 FAX: 018-889-3162
E-mail: shakoken@jimu.akita-u.ac.jp 秋田大学HP: http://www.akita-u.ac.jp

おうちの人といっしょに！
平成25年度

秋田大学子ども見学デー

～キミの“わくわく”見つけにいこう！～

平成25年8月7日(水) 9:30～11:40
★参加は無料！今年も楽しいコースを用意しました

集 合 場 所 秋田大学60周年記念ホール(手形キャンパス)
対 象 小・中学生(保護者同伴です)
定 員 250名

プログラム

| 時 間 | 内 容 |
|-------------|-----------------|
| 9:00～9:30 | 集合・受付 |
| 9:30～9:50 | 開会式・秋田大学の紹介 |
| 9:50～10:10 | 学長と記念撮影 |
| 10:10～11:40 | コース別に、大学内を見学・体験 |
| 11:40 | 終了 |

見 学 ・ 体 験 コ ー ス
ウラ面をご覧ください

お 申 込 み
郵便はがき、FAX、メールにて下記事項を記入し、ご家族単位でお申込みください。(電話ではお受けできません)

①希望コース ④電話番号
(第3希望までお選びください)
②郵便番号・住所 ⑤子ども氏名、学校名、学年
③保護者氏名 ⑥大学内駐車場利用希望の有無

申込期限：平成25年7月17日(水)

※定員を超えた場合は抽選となります。当選者は平成25年7月下旬に郵送でお知らせいたします。
※大学内駐車場は抽選に限りがございます。状況によってはご希望のコースが満席の場合がございますので、あらかじめご了承ください。
※お申込みは秋田大学公開講座にてお申し込みください。お申し込みは無料です。お申し込みは不要です。
※お申込みに関する個人情報等はインターネットのみに使用いたします。また、個人情報保護法に基づき適切に管理いたします。

お申込み・お問い合わせは  秋田大学 地域創生課 TEL: 018-889-2270 FAX: 018-889-3162
秋田大学HP: http://www.akita-u.ac.jp/ E-mail: shakoken@jimu.akita-u.ac.jp 〒010-8502 秋田市手形学園町1番1号

平成25年度社会貢献事業ポスター（一部）

平成25年度
メディカル・サイエンスカフェ・NEXT

日時：平成 25 年 8 月 28 日（水） 15 時 30 分～ 17 時
場所：湯沢ロイヤルホテル （開場 15 時）
対象：どなたでも（定員：120 名、要申込み）
申込：電話、FAX、E-mail でお申込みください。（①～④をお知らせください）
①氏名 ②電話番号 ③年齢 ④住所（今後、各講座の開催案内を希望する方）

テーマ 高齢社会を明るく元気に生きる

●サイエンスカフェ・マスター●
秋田大学大学院医学系研究科長
教授 澤田 賢一

●● 話題提供者 ●●
秋田大学大学院医学系研究科
保健学専攻 地域・老年看護学講座
教授 中村 順子

『最後まで自分らしく生きる・暮らす
—元気なときも介護が必要になっても—』

秋田大学教育文化学部
教育心理学講座
教授 森 和彦

『注意とは何か？
—注意の解剖学と処方箋について考える—』

医学や健康について、秋田大学の教員が、市民の皆様に分かりやすく解説する公開講演会＋自由に意見交換をする場、それが「メディカル・サイエンスカフェ・ネクスト」です。
今回は、「高齢社会を明るく元気に生きる」ためのヒントを、看護と心理の両面から考えます。
ご年配の方はもちろん、看護に興味がある方、ご両親やご祖父母に元気に過ごしてほしい方など、幅広い年代からのご参加をお待ちしております。
当日はお飲み物もご用意しておりますので、お気軽にお申し込みください。

お申込 秋田大学 横手分校
お問合せ TEL:0182-38-8304 FAX:0182-32-4056 E-mail:yokotekobunko@akita-u.ac.jp

平成25年度
メディカル・サイエンスカフェ・NEXT

日時：平成 25 年 9 月 18 日（水） 15 時 30 分～ 17 時
場所：秋田県立秋田北鷹高等学校（受付 15 時～）
大講堂
対象：どなたでも（定員：150 名、要申込み）
申込：電話、FAX、E-mail でお申込みください。（①～④をお知らせください）
①氏名 ②電話番号 ③年齢 ④住所（今後、各講座の開催案内を希望する方）

テーマ 高齢社会を明るく元気に生きる

●サイエンスカフェ・マスター●
秋田大学大学院医学系研究科長
教授 澤田 賢一

●● 話題提供者 ●●
秋田大学大学院医学系研究科
保健学専攻 地域・老年看護学講座
教授 中村 順子

『最後まで自分らしく生きる・暮らす
—元気なときも介護が必要になっても—』

秋田大学教育文化学部
教育心理学講座
教授 高田 知恵子

『私の人生は私の物語 最終章に彩りを!!』

医学や健康について、秋田大学の教員が、市民の皆様に分かりやすく解説する公開講演会＋自由に意見交換をする場、それが「メディカル・サイエンスカフェ・ネクスト」です。
今回は、「高齢社会を明るく元気に生きる」ためのヒントを、看護と心理の両面から考えます。
ご年配の方はもちろん、看護に興味がある方、ご両親やご祖父母に元気に過ごしてほしい方など、幅広い年代からのご参加をお待ちしております。
当日はお飲み物もご用意しておりますので、お気軽にお申し込みください。

お申込 秋田大学 北秋田分校
お問合せ TEL:0186-62-1111 FAX:0186-63-2586 E-mail:nokken@akita-u.ac.jp

平成25年度
メディカル・サイエンスカフェ・NEXT

日時：平成 25 年 10 月 2 日（水） 15 時 30 分～ 17 時 30 分
場所：美郷町中央ふれあい館（受付 15 時～）
対象：どなたでも（定員：120 名、要申込み）
申込：電話、FAX、E-mail でお申込みください。（①～④をお知らせください）
①氏名 ②電話番号 ③年齢 ④住所

テーマ 高齢社会を明るく元気に生きる

●サイエンスカフェ・マスター●
秋田大学大学院医学系研究科長
教授 澤田 賢一

●● 話題提供者 ●●
秋田大学大学院医学系研究科
保健学専攻 地域・老年看護学講座
教授 中村 順子

『最後まで自分らしく生きる・暮らす
—元気なときも介護が必要になっても—』

秋田大学教育文化学部
教育心理学講座
教授 森 和彦

『注意とは何か？
—注意の解剖学と処方箋について考える—』

大学院工学資源学研究所
情報工学専攻
教授 水戸部 一孝

『交通事故に遭いやすい高齢歩行者
—事故を避けるためにできること—』

医学や健康について、秋田大学の教員が、皆様に分かりやすく解説する公開講演会＋自由に意見交換をする場、それが「メディカル・サイエンスカフェ・ネクスト」です。
今回は、「高齢社会を明るく元気に生きる」ためのヒントを、看護と心理、さらには工学的な見地からも考えます。
ご年配の方はもちろん、看護に興味がある方、ご両親やご祖父母に元気に過ごしてほしい方など、幅広い年代からのご参加をお待ちしております。
当日はお飲み物もご用意しておりますので、お気軽にお申し込みください。

お申込 美郷町役場 企画財政課 秋田大学 地域創生課
お問合せ TEL:019-1541 秋田県北秋田郡美郷町上郷2-170-10 TEL:0187-84-4301 FAX:0187-85-3102 E-mail:kakuhon@town.misato.akita.jp

秋田大学主催日本海中部地震 30 周年シンポジウム

**日本海中部地震の
教訓を明日へ伝える**

—過去から学び、未来へつなげるために—

1983年5月26日11時59分、突然発生したこの瞬間の出来事は、私たちの生活に大きな影響を及ぼしました。日本海中部地震から今年で30年。節目の年に、私たちが少しでも、教訓を未来へ引き継ぐこと。このシンポジウムでは、基調講演やパネルディスカッションを通して日本海中部地震を振り返り、そこから得た教訓を今に活かし、そして未来へつなげていくことを目的として開催します。

■プログラム

- 14:00 開会・主催者挨拶
- 14:10 基調講演 1 『男鹿半島周辺の変動地形』
東北大学大学院理学研究科教授 災害科学国際研究所・災害工学研究部門兼務 今泉 俊文
- 14:55 基調講演 2 『日本海中部地震津波から学ぶ津波防災』
秋田大学大学院工学資源学研究所教授 地域防災力研究センター長兼務 松富 英夫
- 15:40 休憩
- 15:50 パネルディスカッション
○パネリスト
男鹿市長 渡部 幸男
社会福祉法人男鹿信生会理事長 田沼 昭男
秋田大学地域創生センター准教授 鎌滝 孝信
秋田大学地域創生センター地域防災アドバイザー 野越 三雄
○コーディネーター
秋田大学地域創生センター地域防災部門長・准教授 水田 敏彦
- 17:00 閉会

平成 25 年
5.26 日
14:00-17:00
男鹿市民ふれあいプラザ
『ハートピア』
男鹿市川原町川原外字 126-16
参加無料 定員 100 名
※要申し込み

■お申し込み・お問い合わせ
秋田大学地域創生センター
TEL: 018-889-2844 FAX: 018-889-3162
E-mail: bousai-s@jimmu.akita-u.ac.jp
H P: http://www.akita-u.ac.jp/

主催：秋田大学
共催：秋田県、男鹿市、男鹿市教育委員会



Akita University

平成25年度 秋田大学地域創生センター年報

秋田大学地域創生センター 編集・発行

平成26年7月

〒010-8502 秋田県秋田市手形学園町1番1号

TEL : 018-889-2270

FAX : 018-889-3162

E-mail : shakoken@jimu.akita-u.ac.jp

